春日那珂川水道企業団
水道事業ビジョン２０２１
第２次
前期実施計画
令和３年度～令和６年度

令和５年３月策定
春日那珂川水道企業団

目　　次

１．水道事業ビジョン２０２１前期実施計画の策定にあたって
（１）春日那珂川水道企業団水道事業ビジョン２０２１・・・・・・・・・・１
（２）前期実施計画の策定趣旨及び位置付け・・・・・・・・・・・・・・・２
（３）第１次前期実施計画との関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
（４）第１次前期実施計画からの変更点・・・・・・・・・・・・・・・・・３

２．水需要等の見込
（１）給水人口・１日平均給水量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
（２）有収水量・料金収入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

３．事業計画
（１）施策体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
（２）前期実施計画事業調書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
　①　基本方針１　安全・安心な水の供給・・・・・・・・・・・・・・・８
　②　基本方針２　災害に強い強靭な水道の構築・・・・・・・・・・・１６
　③　基本方針３　安定的な事業運営の持続・・・・・・・・・・・・・３５

４．財政の見通し
（１）前期実施計画における財政の見通しの概要・・・・・・・・・・・・６６
（２）収益的収支・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６７
（３）資本的収支・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６８
（４）企業債残高・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６９
（５）財政収支実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７０
（６）財政収支実績及び見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７１

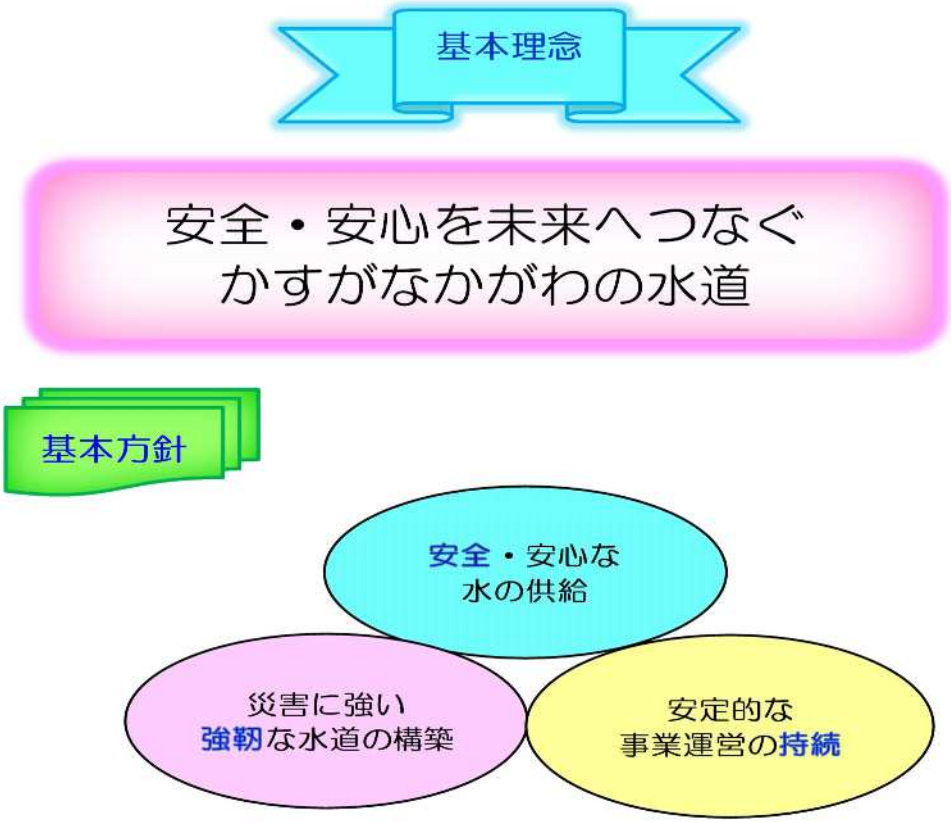
５．進捗管理と計画見直し
（１）進捗管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７２
（２）事業評価と計画見直し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７２

１．水道事業ビジョン２０２１前期実施計画の策定にあたって

（１）春日那珂川水道企業団水道事業ビジョン２０２１

春日那珂川水道企業団では、人口減少による料金収入減少、施設の老朽化・耐震化、人材育成、技術の継承といった、環境の変化や事業の課題に対応し、計画的・戦略的に水道事業の経営に取り組んでいくことを目的として、令和３（２０２１）年度から令和１４（２０３２） 年度までの１２年間を計画期間とする「春日那珂川水道企業団水道事業ビジョン２０２１」（以下「水道事業ビジョン２０２１」という。）を令和３（２０２１）年３月に策定しました。

水道事業ビジョン２０２１においては、「安全・安心を未来へつなぐ　かすがなかがわの水道」を 基本理念として国が新水道ビジョンで示した水道の理想像「安全」、「強靭」、「持続」も踏まえつつ、今後の春日那珂川水道企業団が目指すべき方向性を定め、その実現に向けて取り組むべき３つの基本方針を設定しています。

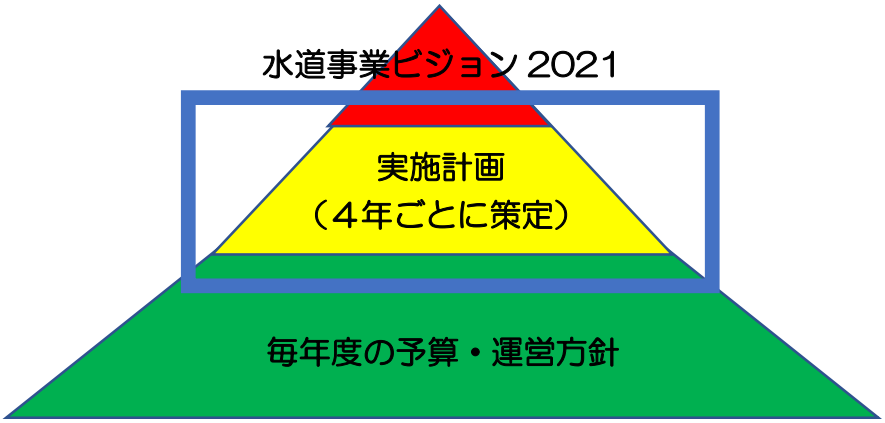


基本理念及び基本方針

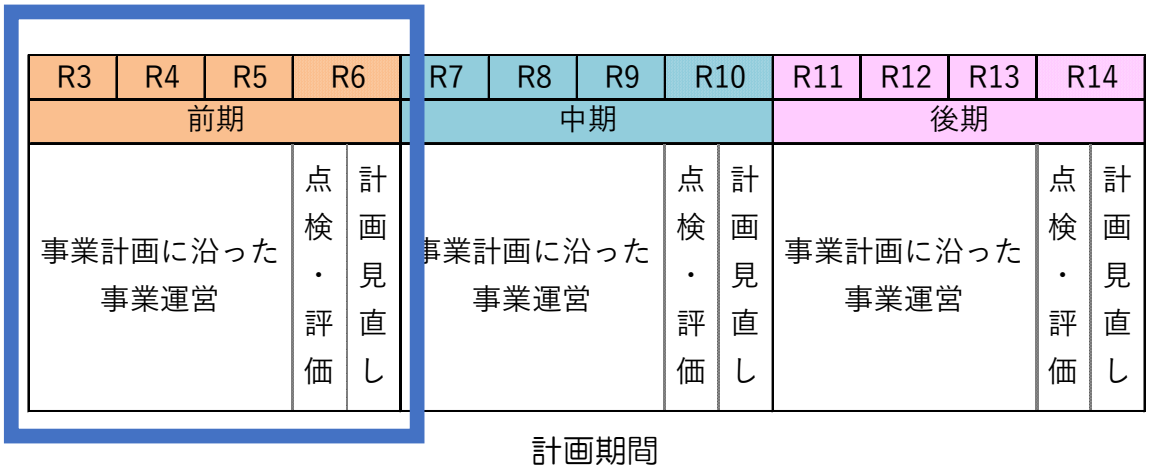
（２）前期実施計画の策定趣旨及び位置付け

前期実施計画は、水道利用者のニーズに的確に対応し、効果的な事業の推進を図るため、水道事業ビジョン２０２１において定めた主要施策及び実現方策の具体的内容及び実施時期等を明らかにするものです。

計画期間は、４年間を単位とします。この計画に基づき毎年度の予算や運営方針を策定し、効果的・効率的に事業を推進していきます。



計画の位置付け



計画期間

（３）第１次前期実施計画との関係

第２次前期実施計画は、令和４（２０２２）年４月に策定した第１次前期実施計画の実施内容を確認するとともに、令和５（２０２３）年度に実施する事業の査定結果を踏まえて、第１次前期実施計画の見直しを行う形で策定します。自動車でいう年次改良にあたります。

（４）第１次前期実施計画からの変更点

第１次前期実施計画からの見直しに伴い、以下のとおり変更しています。

①　予測（計画）値から実績（決算）値へ

令和３（２０２１）年度について、決算が確定したことから、予測（計画）値から実績（決算）値に変更しています。

②　予測（計画）値の見直し

令和３（２０２１）年度の予測（計画）値から実績（決算）値への変更に伴い、令和４（２０２２）年度から令和５（２０２３）年度までの予測（計画）値について、見直しを実施しています。

具体的には、令和４（２０２２）年度は補正予算値、令和５（２０２３）年度は当初予算値になります。

令和６（２０２４）年度については、令和３（２０２１）年度から令和５（２０２３）年度の値の見直しに伴い、一部見直しを実施しています。

③　事業計画の調書化

第１次前期実施計画では、実現方策毎に事業を取りまとめていましたが、第２次前期実施計画では、前期実施計画期間における事業の実施状況、達成度、評価及び課題がひと目で把握できる調書を、各実現方策を構成する最小単位の事業毎に作成しています。

④　事業の見直し

事業計画の調書化に伴い、各事業の各実現方策に対する有効性等を評価し、事業の一部見直しを行っています。

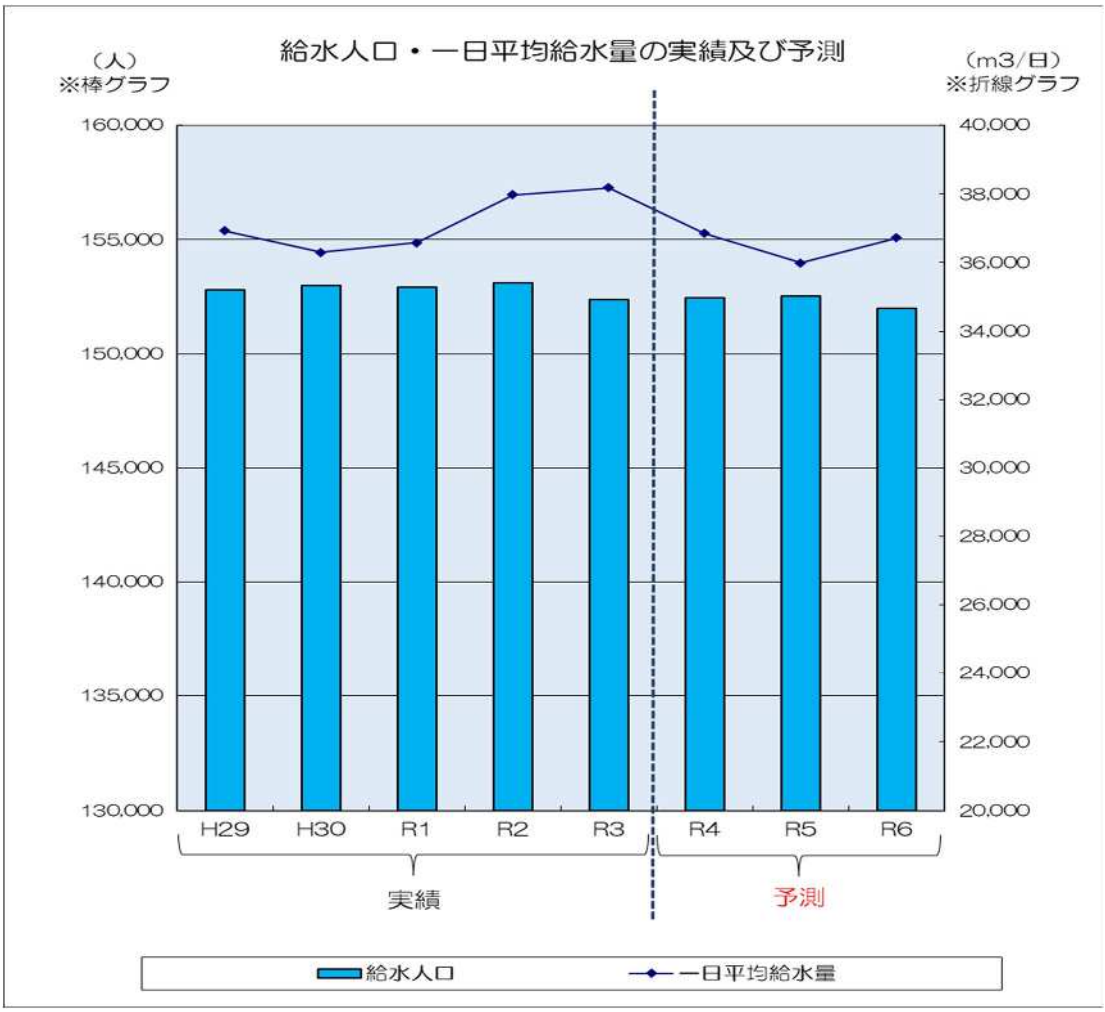
ア　「原町浄水場施設耐震化事業」及び「ポンプ施設耐震補強事業」については、計画期間内に事業を実施する予定がないため削除しています。

イ　「日本水道協会の合同防災訓練への参加」については、「計画的な訓練の実施と見直し」に統合しています。

ウ　「河川における堆砂除去の要望」については、名称を「水源安定化に向けた要望」に変更しています。

2．水需要等の見込

（１）給水人口・１日平均給水量



	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
給水人口	152,810	152,982	152,920	153,112	152,397	152,457	152,535	152,018
一日平均給水量	36,929	36,306	36,576	37,978	38,177	36,849	35,989	36,722

実績　　予測

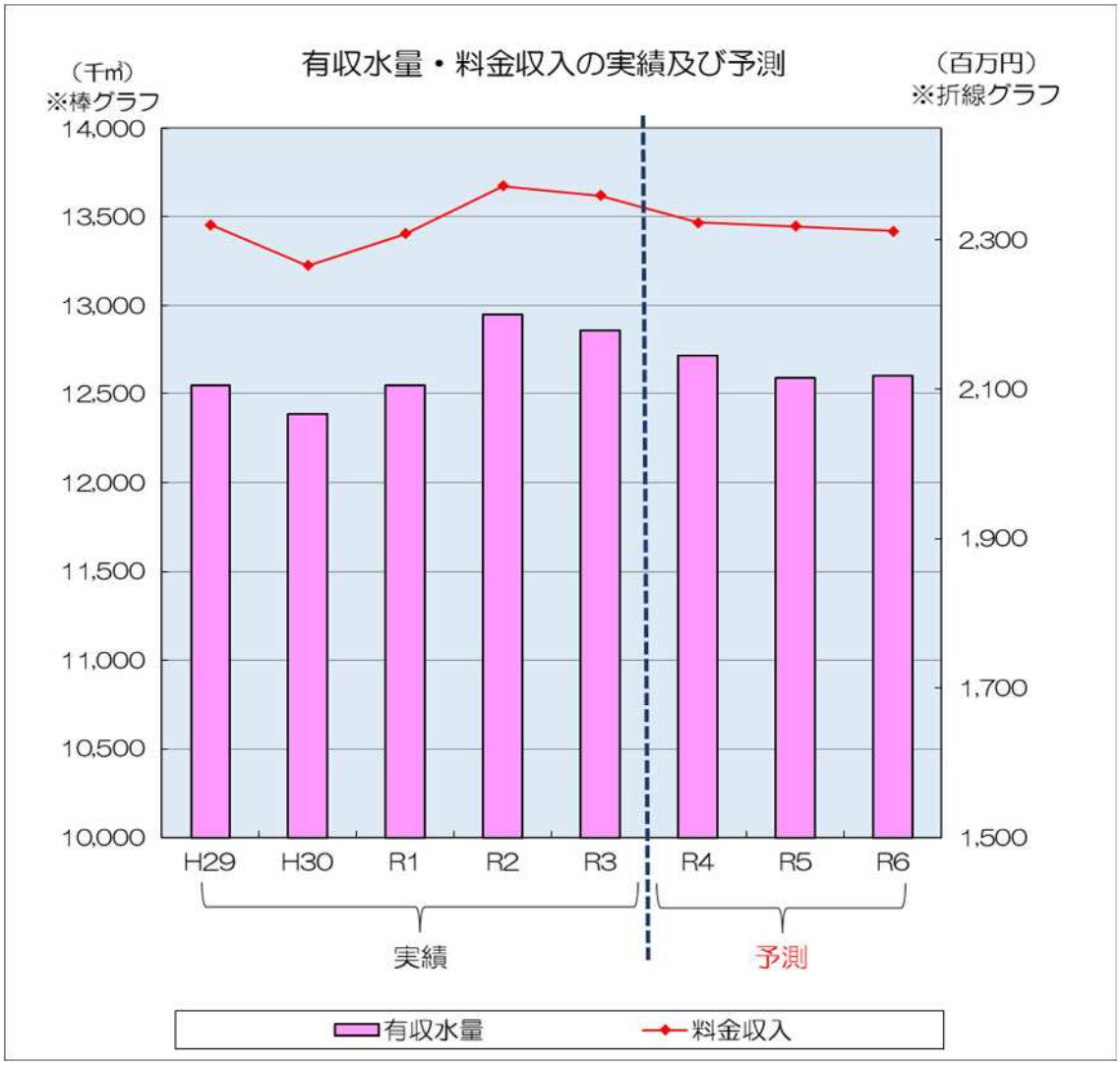
給水人口について

給水人口は、R2 をピークに減少のトレンドを示しています。

１日平均給水量について

１日平均給水量は、給水人口同様、R2 をピークに減少すると予測していましたが、新型コロナウイルスの影響で、R3 は R2よりも増加しています。R4 以降は減少すると見込まれます。

（2）有収水量・料金収入



	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
有収水量	12,549	12,389	12,545	12,946	12,859	12,714	12,587	12,599
料金収入	2,321	2,266	2,309	2,373	2,360	2,324	2,319	2,312

実績　　予測

有収水量について

有収水量は、R2 をピークに減少すると見込まれます。

料金収入について

料金収入は、有収水量同様、R2 をピークに減少すると見込まれます。

3．事業計画

（１）施策体系

前期実施計画では、水道事業ビジョン２０２１において基本方針の達成に向け体系的に整理した「主要施策」及び「実現方策」に基づき各事業を着実に実施していきます。

基本理念	基本方針	主要施策と実現方策
安全・安心を未来へつなぐ　かすがなかがわの水道	安全 1　安全・安心な水の供給	**1-1　自己水源の安定化**
		（1）自己水源の安定化と水源確保
		1-2　水質管理の徹底
		（1）水安全計画の適正な運用と見直し
		（2）水質管理
		（3）水質検査体制の充実
		1-3　良質な水道水の維持
		（1）鉛製給水管の解消促進
		（2）配水管の維持管理の促進
		（3）貯水槽水道維持管理の促進
	強靭 2　災害に強い強靭な水道の構築	**2-1　水道施設の耐震化と更新**
		（1）浄水施設の耐震化と更新
		（2）配水施設の耐震化と更新
		（3）管路の耐震化と更新
		2-2　危機管理対策の充実
		（1）応急給水体制の充実
		（2）危機管理訓練の実施
		（3）災害用資機材等の備蓄
		（4）セキュリティ対策の充実
	持続 3　安定的な事業運営の持続	**3-1　経営の効率化**
		（1）経費の節減
		（2）外部委託化の推進
		（3）組織の合理化と定員管理の適正化
		（4）広域化の検討
		（5）業務の効率化と高度化
		（6）アセットマネジメントによる効率的な経営
		（7）国・県への要望
		3-2　お客さまとのコミュニケーション
		（1）水道事業の啓発
		（2）広報広聴活動の充実
		3-3　給水収益の確保
		（1）水道料金収納への対応
		3-4　人材育成と技術の継承
		（1）職員の技術水準の確保
		3-5　環境への配慮
		（1）環境に配慮した事業の推進

（2）前期実施計画事業調書体系一覧

基本方針	主要施策	実現方策	No.	事業名	所管課
安全・安心な水の供給	自己水源の安定化	自己水源の安定化	1-1(1)	恒久水源確保	施設課建設係
			1-1(1)	自己水源安定化	浄水課
	水質管理の徹底	水安全計画の適正な運用と見直し	1-2(1)	水安全計画	浄水課
		水質管理	1-2(2)	水源パトロールの実施	浄水課
		水質検査体制の充実	1-2(3)	水質検査計画の定期的な見直し	浄水課
	良質な水道水の維持	鉛製給水管の解消促進	1-3(1)	鉛給水管の更新と周知	施設課維持係
		配水管の維持管理の促進	1-3(2)	漏水調査の実施	施設課維持係
		貯水槽水道維持管理の促進	1-3(3)	貯水槽水道維持管理の促進	施設課維持係
災害に強い強靭な水道の構築	水道施設の耐震化と更新	浄水施設の耐震化と更新	2-1(1)	東隈浄水場施設耐震化事業	浄水課
			2-1(1)	埋金浄水場施設耐震化事業	浄水課
		配水施設の耐震化と更新	2-1(2)	原町浄水場設備更新事業	浄水課
			2-1(2)	東隈浄水場設備更新事業	浄水課
			2-1(2)	埋金浄水場設備更新事業	浄水課
			2-1(2)	配水施設更新事業	施設課維持係
			2-1(2)	庁舎大規模改修事業	総務課財政係
		管路の耐震化と更新	2-1(3)	管路整備事業（導水管含む）	施設課建設係
	危機管理対策の充実	応急給水体制の充実	2-2(1)	構成団体との連携強化	総務課総務係
			2-2(1)	応急給水栓の点検	浄水課
		危機管理訓練の充実	2-2(2)	危機管理基準の見直しと事業継続計画の策定	総務課総務係
			2-2(2)	計画的な訓練の実施と見直し	総務課総務係
			2-2(2)	浄水場における危機管理訓練	浄水課
		災害資機材等の備蓄	2-2(3)	３浄水場災害用資機材等の確保	浄水課
			2-2(3)	災害用消耗品の備蓄（食料品等）	総務課総務係
			2-2(3)	応急給水用品備蓄計画	施設課維持係
		セキュリティ対策の充実	2-2(4)	セキュリティ・ポリシーの充実	総務課総務係
			2-2(4)	ネットワークシステムの更新	総務課財政係
			2-2(4)	積算システムの情報管理	施設課建設係
安定的な事業運営の持続	経営の効率化	経費の節減	3-1(1)	太陽光発電による電気料金の削減及び機械脱水汚泥の売却	浄水課
			3-1(1)	量水器の購入計画見直し	料金課
			3-1(1)	公用車更新	総務課財政係
			3-1(1)	電力契約の検討	浄水課
			3-1(1)	業務用無線機更新	総務課財政係
		外部委託化の推進	3-1(2)	運転管理業務の見直し及び包括的業務委託の推進	浄水課
			3-1(2)	官民連携の検討	総務課企画係
		組織の合理化と定員管理の適正化	3-1(3)	定員管理計画の見直し	総務課総務係
		広域化の検討	3-1(4)	広域化の検討	総務課企画係
		業務の効率化と高度化	3-1(5)	運転管理業務の見直し及び包括的業務委託の推進	浄水課
			3-1(5)	積算システムの更新	施設課建設係
			3-1(5)	竣工図面電子化業務	施設課建設係
			3-1(5)	水道料金システムの更新	料金課
			3-1(5)	給与システムの更新	総務課総務係
			3-1(5)	公営企業会計システムの更新	総務課財政係
		アセットマネジメントによる効率的な経営	3-1(6)	アセットマネジメント策定業務委託検討	総務課企画係
		国・県への要望	3-1(7)	水源安定化にむけた要望	浄水課
	お客さまとのコミュニケーション	水道事業の啓発	3-2(1)	ホームページの更新	総務課総務係
			3-2(1)	イベントの実施	総務課総務係
		広報広聴活動の充実	3-2(2)	給水装置の維持管理方法の情報発信	施設課維持係
			3-2(2)	情報公開制度の徹底、水レター記事の充実	総務課総務係
	給水収益の確保	水道料金収納への対応	3-3(1)	水道料金収納方法拡大	料金課
	人材育成と技術の継承	職員の技術水準の確保	3-4(1)	浄水場運転管理に必要な資格取得	浄水課
			3-4(1)	現場管理実習及び内外部研修	施設課建設係
			3-4(1)	現場管理実習及び内外部研修	施設課維持係
			3-4(1)	現場管理実習及び内外部研修	浄水課
			3-4(1)	人材育成・技術の継承	施設課建設係
			3-4(1)	研修制度の充実	総務課総務係
	環境への配慮	環境に配慮した事業の推進	3-5(1)	環境負荷の低減	浄水課
			3-5(1)	建設資材の有効活用	施設課建設係
			3-5(1)	一斉定時退庁、ノーマイカーデーの推進	総務課総務係

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	1　安全・安心な水の供給
主要施策	1-1　自己水源の安定化
実現方策	（1）自己水源の安定化と水源確保

担当課	施設課建設係
事業種別	完了

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
恒久水源確保	工事施工			
事業費（千円）	55,956			

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
恒久水源確保	完了			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	60,199			
事業概要（目的）	令和２年までに確保した恒久水源（普通河川及びトンネル湧水）については、灌漑用水路及び堰を活用して取水していますが、より安定的かつ効率的に取水できるよう、灌漑用水路及び堰の整備を行います。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	普通河川（西畑川）及びトンネル湧水（上梶原）水源確保に伴う地元補償工事を実施します。			
達成及び進捗状況	普通河川（西畑川）及びトンネル湧水（上梶原）水源確保に伴う地元補償工事を実施しました。			
	◎：完了			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
新規水源取水許可水量	新規水源の取水許可水量合計	㎥/日	19,340	19,340			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	A：高い			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	A：高い			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
令和３年度をもって、当初予定した恒久水源確保に係る工事等は完了しました。	◎：完了

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	1　安全・安心な水の供給
主要施策	1-1　自己水源の安定化
実現方策	（1）自己水源の安定化と水源確保

担当課	浄水課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
自己水源の安定化	継続実施			
	設計・工事			
事業費（千円）	23,526	28,893		

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
自己水源の安定化	継続実施			
	設計・工事			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	19,351	40,656	50,125	
事業概要（目的）	現在の水源は、天気の影響を受けやすい脆弱な水源も含まれることから、今後も、安全な水を安定的に供給するため、水源からの安定した取水方法を検討するとともに、新たな水源確保に向けて、関係各所と協議等を行います。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	新規水源確保検討業務を委託します。	河川管理者と協議し、井尻第2取水場取水口ゲート改良実施設計業務を10月から実施します。	河川管理者と協議し、井尻第２取水ゲート設置工事及び基幹管路整備検討業務を実施します。また、埋金水質対応として、後PAC注入機を2台購入します。	
達成及び進捗状況	業務を委託（9月）。水源確保に向けた検討報告を受けるとともに、今後のロードマップを作成しました。	河川管理者と協議し、井尻第2取水場が堆砂等により、取水不能の際、城ノ谷川で振替取水できる流水占用許可を取得しました。また、井尻第2取水場取水口ゲート改良実施設計業務を委託しました(10月)。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
給水制限日数 (PI B115)	年間給水制限日数	日	0	0			
福地区受水増量日数	福地区から受水量を増量した日数（振替は除く）	日/年	0	0			
新規水源の検討回数	更なる新規水源確保に向けて検討した回数	回/年	1	1			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
新たな水源確保に向けた関係各所（河川管理者、関係機関等）との協議においては、検討報告を活用して慎重に進める必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	1　安全・安心な水の供給
主要施策	1-2　水質管理の徹底
実現方策	（1）水安全計画の適正な運用と見直し

担当課	浄水課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
水安全計画	継続実施・運用			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
水安全計画	継続実施・運用			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	「水安全計画」を平成30（2018）年度に策定しています。この計画は、新規水源の確保前に作成されているため、新規水源を確保した現在の運用状況を踏まえて必要に応じて見直しを図るとともに、適正に運用することで、安全な水道水の供給に努めます。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	適正に運用を図りつつ、見直しの必要性について検討します。	適正に運用を図りつつ、見直しの必要性について検討します。	適正に運用を図りつつ、見直しの必要性について検討します。	適正に運用を図りつつ、見直しの必要性について検討します。
達成及び進捗状況	水質事故発生はなく、また、適正に運用できており、現時点で見直す点はないという結論に至りました。	水質事故発生はなく、適正に運用できています。 また、白水大池のマンガン対策については、試験導入したプロペラ式循環装置により抑制効果が確認されています。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
水質事故件数	取水口から蛇口までの間における年間水質事故件数	件/年	0	0			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
各浄水場ごとの水源の水質問題（埋金浄水場の雨天時の水質問題や東隈浄水場のマンガン対策、原町浄水場PAC見直しなど）に対して調査を継続して行っていく必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	1　安全・安心な水の供給
主要施策	1-2　水質管理の徹底
実現方策	（2）水質管理

担当課	浄水課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
水源パトロールの実施	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
水源パトロールの実施	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	河川等の水源への異物（油・糞尿）混入などによる水質事故を未然に防ぐことを目的として、水源パトロールを実施するとともに、関係機関との連絡体制を強化します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	月1回水源のパトロールを実施。	月1回水源のパトロールを実施。	月1回水源のパトロールを実施。	月1回水源のパトロールを実施。
達成及び進捗状況	予定どおり月1回（年12回）パトロールを実施し、河川への異物混入等を4件発見しました。いずれも早期対応により、浄水場への流入はありませんでした。	予定どおり月1回（年12回）パトロールを実施しました。また河川への油流出が2件ありましたが、いずれも早期対応により、浄水場への流入はありませんでした。また、過去に事例があった場所については関係者立会のもと状況確認を行いました。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
水源の水質事故件数(PI A301)	年間水源水質事故件数	件	0	4			
水源パトロール回数	水源パトロールを実施した回数	回/年	12	12			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
水質事故発生時の各浄水場間及び関係機関との連帯を強化するため、情報共有を緻密に行っていく必要があります。（水質事故の情報提供を徹底することで、相手からも情報提供を得られる関係を構築します。）	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	1　安全・安心な水の供給
主要施策	1-2　水質管理の徹底
実現方策	（3）水質検査体制の充実

担当課	浄水課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
水質検査計画の定期的な見直し	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
水質検査計画の定期的な見直し	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	水源から蛇口に至るまでの水が安全な水質であることを実証するため、水質検査は、水道GLPを取得している福岡地区水道企業団水質センターへ委託しています。今後も水質検査結果の信頼性を高めるために同水質センターと緊密な連携を図り、水質検査体制の充実に努めます。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	水質検査計画に基づき、検査を実施します。また、次年度の水質検査計画の策定にあたり、当年度の水質検査結果の分析を行うとともに、ＪＡ等から農薬に関する情報を収集し、検査項目の抽出を行います。	水質検査計画に基づき、検査を実施します。また、次年度の水質検査計画の策定にあたり、当年度の水質検査結果の分析を行うとともに、ＪＡ等から農薬に関する情報を収集し、検査項目の抽出を行います。	水質検査計画に基づき、検査を実施します。また、次年度の水質検査計画の策定にあたり、当年度の水質検査結果の分析を行うとともに、ＪＡ等から農薬に関する情報を収集し、検査項目の抽出を行います。	水質検査計画に基づき、検査を実施します。また、次年度の水質検査計画の策定にあたり、当年度の水質検査結果の分析を行うとともに、ＪＡ等から農薬に関する情報を収集し、検査項目の抽出を行います。
達成及び進捗状況	計画通り検査を実施するとともに、農薬の情報収集及び抽出を行い、次年度の水質検査計画を策定しました。	計画通り検査を実施するとともに、農薬の情報収集及び抽出を行い、次年度の水質検査計画を策定します。また、白水大池の水質悪化等、臨時の水質検査を通して、浄水処理に活用しました。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
独自水質管理目標値達成率	(達成回数/検査回数)×100	%/年	100	67			
水質基準超過率	(超過回数/検査回数)×100	%/年	0	0			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
福岡地区水道企業団との連絡体制の強化及び農薬情報について、JAとの連帯強化の継続及び水質検査結果の分析結果をもとに、独自水質管理目標達成率の向上に努める必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	1　安全・安心な水の供給
主要施策	1-3　良質な水道水の維持
実現方策	（1）鉛製給水管の解消促進

担当課	施設課維持係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
鉛給水管の更新と周知	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
鉛給水管の更新と周知	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	公道に埋設された配水管から分岐した鉛製給水管（約１ｍ）について、配水管の布設替や漏水修理により取替を進め、鉛製給水管の解消を目指します。また、３年に一度、各配水系統ごとに鉛製給水管を使用している給水栓にて鉛に関する水質検査を行い、水道水の安全性を確認し、水質検査結果を公表します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	配水管の布設替工事や漏水修理等により鉛製給水管の解消を進めます。	配水管の布設替工事や漏水修理等により鉛製給水管の解消を進めます。	配水管の布設替工事や漏水修理等により鉛製給水管の解消を進めます。	配水管の布設替工事や漏水修理等により鉛製給水管の解消を進めます。
達成及び進捗状況	布設替工事等により、今年度は199件の解消を行いました。	漏水修理等により、今年度は59件（12月末まで）の解消を行いました。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
鉛製給水管解消件数	１年間に解消した鉛製給水管の件数	件/年	300	199			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	A：高い			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	A：高い			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
鉛製給水管の解消については、解消するまでに長い年月を必要とします。現在、定期的に水質検査を行っており安全性は確認できているため、今後も継続して水質検査を実施して検査結果を公表することで、安全性を確保しながら、解消に努める必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	1　安全・安心な水の供給
主要施策	1-3　良質な水道水の維持
実現方策	（2）配水管の維持管理の促進

担当課	施設課維持係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
漏水調査の実施	４か年計画による調査の実施			
事業費（千円）	4,776	4,776	6,899	

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
漏水調査の実施	４か年計画による調査の実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	4,776	4,776	6,899	
事業概要（目的）	道路の浸水や陥没を防止し、有効な水利用を行うことにより浄水・配水等の経費削減に繋げることを目的として、計画的な漏水調査を行い、維持管理の促進を目指します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	給水区域を４分割し、公道上及び宅内メータまでの漏水調査を行います。	給水区域を４分割し、公道上及び宅内メータまでの漏水調査を行います。	給水区域を４分割し、公道上及び宅内メータまでの漏水調査を行います。	
達成及び進捗状況	20件（配水管：2件、給水装置：18件）の漏水を発見し、修理を行いました。	26件（配水管：5件、給水装置：24件・12月末まで）の漏水を発見し、修理又は修理のために住民等との調整を行っています。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
漏水調査実施率（給水）	年度末時の総実施件数／44,000戸×100	%	R3：50% R4：75% R5：100%	49.7			
漏水調査実施率（管路）	年度末時の総実施距離／470km×100	%	R3：50% R4：75% R5：100%	50.6			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	A：高い			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
配水管路状況を分析し、効率的な管路更新計画を策定することで漏水量を減らすことが必要です。 また、漏水調査結果を分析し、より効果的な漏水調査の手法等について検討する必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	1　安全・安心な水の供給
主要施策	1-3　良質な水道水の維持
実現方策	（3）貯水槽水道維持管理の促進

担当課	施設課維持係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
貯水槽水道維持管理の促進	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
貯水槽水道維持管理の促進	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	簡易専用水道については水道法により明確な規定が定められていますが、小規模貯水槽水道についても簡易専用水道と同様の管理に務める必要があるため、小規模貯水槽水道に対しての点検や清掃などの維持管理の必要性を周知し、啓発を行います。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	広報紙への掲載及びＨＰ掲載を行います。	広報紙への掲載及びＨＰ掲載を行います。	広報紙への掲載及びＨＰ掲載を行います。	広報紙への掲載及びＨＰ掲載を行います。
達成及び進捗状況	Ｒ３年３月号に掲載したため、令和３年度の広報紙掲載はありませんでした。ＨＰの内容の変更もありませんでした。	Ｒ４年７月号に貯水槽水道の説明及び管理についての記事を掲載しました。HP掲載は継続中です。		
	△：遅滞・取組不足			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
情報提供	広報紙やHPに情報提供した回数	回/年	1	0			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
簡易専用水道を含む貯水槽水道については、構成団体の環境課と連携して貯水槽の管理の徹底を啓発していく必要があり、給水契約に基づく水道事業者として、今後も広報紙等を通じ、定期的な清掃や水質検査の啓発を行っていく必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築	担当課	浄水課
主要施策	2-1　水道施設の耐震化と更新	事業種別	継続
実現方策	（1）浄水施設の耐震化と更新		

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
東隈浄水場施設耐震化事業			設計・工事	
事業費（千円）			30,954	30,000

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
東隈浄水場施設耐震化事業		選定・診断・設計・工事		
事業費（千円）		決算見込	予算	未定
		-	3,111	30,000
事業概要（目的）	東隈浄水場は浄水施設の改良に合わせて耐震化も進めており、すでに耐震性のある施設となっていますが、既存施設の一部は耐震性が不明なため、劣化診断を実施し、その結果を受けて必要な耐震化を計画的に実施します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等		東隈浄水場の既存施設の内、劣化診断の対象施設を選定します。	東隈浄水場施設劣化診断調査業務を委託するとともに、調査検討結果を踏まえて耐震化計画を策定します。	耐震化計画に基づいた耐震化に係る設計及び工事を実施します。
達成及び進捗状況		劣化診断対象施設を選定し、東隈浄水場施設劣化診断調査業務を予算計上しました。		

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
東隈浄水場施設耐震化率	(耐震化した施設の施設件数/東隈浄水場の施設件数合計)×100	%	100				

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。				
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。				
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。				

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
東隈浄水場には、浄水施設改良に伴い未使用施設が存在しているため、劣化診断結果を踏まえた今後の利用方針の検討が必要です。また、2号脱水機は設置年度が古いものの、稼動率が高いため、劣化診断の結果、耐震性がないと判断された場合、早急な耐震化が必要です。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築	担当課	浄水課
主要施策	2-1　水道施設の耐震化と更新	事業種別	継続
実現方策	（1）浄水施設の耐震化と更新		

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
埋金浄水場施設耐震化事業	調査・設計・工事			
事業費（千円）	28,490	-	32,307	59,820

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
埋金浄水場施設耐震化事業	調査・設計・工事			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	28,490	0	35,013	79,630
事業概要（目的）	埋金浄水場は、平成9（1997）年の稼働から20年以上が経過しており、耐震基準を満たしているのかが不明であるため、施設の耐震診断を実施し、その結果を受けて必要な耐震化に取り組み、補強も行います。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	耐震性を有するか否かの診断業務を実施し、耐震性がないと判断された場合は、耐震化に向けた事業計画を策定します。	国庫補助申請に必要な資料作成及び設計業務の準備を進めます。	埋金浄水場耐震補強設計業務を実施します。	耐震補強工事を実施します（フロック形成池、薬品沈殿池、急速ろ過池）。 補修工事を実施します（フロック形成池及び薬品沈殿池、急速ろ過池）。
達成及び進捗状況	業務をコンサルタントに委託（7月）。診断の結果、耐震化が必要な施設が判明したため、国庫補助を活用した耐震化事業計画を策定しました。	国庫補助申請に必要な資料を作成するとともに、埋金浄水場耐震補強実施設計業務を令和5年度予算に計上しました。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
埋金浄水場浄水施設耐震化率	(耐震化した浄水施設の施設能力/埋金浄水場の施設能力)×100	%	100	0			
埋金浄水場浄水施設耐震化計画進捗率	年度別取り組み内容の耐震化計画に対する進捗率	%	100	100			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
当該浄水場は最上流部にあり、他浄水場からの応援が難しいため、耐震補強工事施工中に浄水処理ができない場合、水運用が困難なため、対策を考える必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築
主要施策	2-1　水道施設の耐震化と更新
実現方策	（2）配水施設の耐震化と更新

担当課	浄水課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
原町浄水場設備更新事業	設計・工事			
事業費（千円）	21,681	35,348	30,000	64,338

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
原町浄水場設備更新事業	設計・工事			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	21,681	8,063	39,523	79,041
事業概要（目的）	老朽設備の更新については、設備の整備優先度、緊急度、投資効果等を考慮した基本的な更新基準を設け、更新計画を策定し、最小の経費で最大の効果が得られるように計画的・効率的な更新を進めます。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	水質計器,排水移送ポンプ及び急速撹拌機を更新します。	空調設備を更新し、PAC注入機を増設します。	配水ポンプNO1及び春日貯水池監視システムを更新します。春日水源電気計装設備を改修します。	配水ポンプコントロールセンター、配水ポンプ及び配水ポンプ盤を更新します。
達成及び進捗状況	予定どおり更新しました。 ・水質計器更新（9月発注、3月竣工） ・排水移送ポンプ及び急速撹拌機更新（10月発注、3月竣工）	予定どおり更新予定です。 ・空調設備更新(12月発注、3月竣工予定) ・PAC注入機(増設)（8月発注、3月竣工予定）		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
更新計画達成率	(更新件数/更新計画件数)×100	%	100	100			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
今後、施設台帳システムの有効活用による更新計画の平準化を検討する予定であり、検討結果によっては計画を変更する可能性があります。また、突発事故等により、前倒しで更新する場合もあります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築
主要施策	2-1　水道施設の耐震化と更新
実現方策	（2）配水施設の耐震化と更新

担当課	浄水課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
東隈浄水場設備更新事業	設計・工事			
事業費（千円）	16,368	6,600	4,631	4,631

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
東隈浄水場設備更新事業	設計・工事			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	5,830	0	41,769	4,631
事業概要（目的）	老朽設備の更新については、設備の整備優先度、緊急度、投資効果等を考慮した基本的な更新基準を設け、更新計画を策定し、最小の経費で最大の効果が得られるように計画的・効率的な更新を進めます。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	東隈第9号井取水ポンプ及び炭焼配水池ケーブルを更新します。	東隈取水口ポンプを更新します。	東隈浄水場中央監視装置機能増設工事及び東隈浄水場施設劣化診断調査他検討業務(ポンプ等)を実施します。	取水ポンプを更新します(変更する場合があります)。
達成及び進捗状況	予定どおり更新しました。 ・東隈9号井取水ポンプ更新（11月発注、3月竣工） ・炭焼配水池ケーブル更新（10月発注、3月竣工）	東隈取水口ポンプ更新工事については、R5年度にポンプの適正等を検討するためR4年度は見送りました。R5年度に検討した結果を受けて、更新工事をR6年度以降に実施する予定です。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
更新計画達成率	(更新件数/更新計画件数)×100	%	100	100			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
今後、施設台帳システムの有効活用による更新計画の平準化を検討する予定であり、検討結果によっては計画を変更する可能性があります。また、突発事故等により、前倒しで更新する場合もあります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築
主要施策	2-1　水道施設の耐震化と更新
実現方策	（2）配水施設の耐震化と更新

担当課	浄水課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
埋金浄水場設備更新事業	設計・工事			
事業費（千円）	17,638	33,110	35,573	55,426

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
埋金浄水場設備更新事業	設計・工事			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	17,638	36,848	35,327	55,426
事業概要（目的）	老朽設備の更新については、設備の整備優先度、緊急度、投資効果等を考慮した基本的な更新基準を設け、更新計画を策定し、最小の経費で最大の効果が得られるように計画的・効率的な更新を進めます。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	埋金浄水場他２ヶ所水位計、操作室空調機及び場外系テレメータを更新します。埋金浄水場排水池連絡管及び返送管布設工事を実施します。	流量計及び水質自動監視装置を更新します。高圧ケーブル及びNO.3送水ポンプ吐出弁を取り替えます。	流量計を更新します。NO.1送水ポンプ吐出弁を取り替えます。埋金浄水場他流量調整自動回路を構築します。	給水流量計、高圧受電盤、主変圧器盤、自動力率調整盤を更新します。UPS、雨量計、逆洗流量計、1,2号加圧給水ポンプ及びNO2送水ポンプ吐出弁を取り替えます。
達成及び進捗状況	一部を除き、予定通り更新しました。 ・埋金浄水場他2ヶ所水位計更新（1月発注、3月竣工） ・操作室空調機更新（9月発注、1月竣工） ・場外系テレメータ更新（8月発注、3月竣工） ・埋金浄水場排水池連絡管及び返送管布設工事（１月発注、3月竣工） ・No.3送水ポンプ分解整備（11月発注、R4に繰越）	予定どおり更新予定。 ・流量計更新(9月発注、3月竣工予定) ・水質自動監視装置更新(10月発注、3月竣工予定) ・高圧ケーブル取替(1月発注、3月竣工予定) ・NO.3送水ポンプ吐出弁取替(8月発注、3月竣工予定（分解精密と合わせて）) ・埋金取水場引込開閉器盤、排水ポンプ取替(1月発注、3月竣工予定)		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
更新計画達成率	(更新件数/更新計画件数)×100	%	100	75			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
今後、施設台帳システムの有効活用による更新計画の平準化を検討する予定であり、検討結果によっては計画を変更する可能性があります。また、突発事故等により、前倒しで更新する場合もあります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築
主要施策	2-1　水道施設の耐震化と更新
実現方策	（2）配水施設の耐震化と更新

担当課	施設課維持係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
配水施設更新事業			設計・工事	
事業費（千円）			22,000	16,000

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
配水施設更新事業		設計・工事		
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
		5,798	27,280	16,000
事業概要（目的）	全配水施設のうち炭焼第一配水池、埋金配水池、西浦配水池及び後野配水池について、外壁や付属施設の補修を行うことで施設の長寿命化を図ります。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等		配水池施設改修設計業務を委託し、施設の劣化状況調査及び延命を目的とした補修工法の選定を実施し、改修実施設計を行います。併せて次年度以降の工事費を算出します。	炭焼第一配水池補修工事を実施します。	埋金配水池補修工事を実施します。
達成及び進捗状況		令和４年９月、委託業者を決定。現在履行中であり、年度末までに実施設計を行うとともに、次年度以降の工事費を算出予定です。		

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
更新計画達成率	(更新件数/更新計画件数)×100	%	100	－			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。				
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。				
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。				

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
令和４年度の設計内容を基に１年に1池ずつの補修を計画していますが、配水池の状態によっては、補修工事の順番を入れ替えたり、一度に複数の配水池の補修工事を行う必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築
主要施策	2-1　水道施設の耐震化と更新
実現方策	（2）配水施設の耐震化と更新

担当課	総務課財政係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
庁舎大規模改修事業	照明LED化	議場マイク設備更新 屋上防水改修		消防設備更新 自動ドア更新 電話設備更新
事業費（千円）	8,910	38,372		9,415

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
庁舎大規模改修事業	完了 （照明LED化）	完了 （議場マイク設備 屋上防水）		消防設備更新 自動ドア更新 電話設備更新 （電話ケーブル等）
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	8,910	18,080		9,735
事業概要（目的）	庁舎修繕計画に則り、庁内設備等の経年劣化に伴う故障等を未然に防止するための改修を行います。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	省エネ等の観点から庁舎内の照明をLED化します。	①議場マイク設備を更新します。 ②庁舎屋上の防水シートを改修します（原町浄水場管理棟の屋上防水と同時施工）。		消防設備、自動ドア及び電話設備(電話ケーブル等)を更新します。
達成及び進捗状況	照明のLED化を行いました。	①第1四半期に発注し、更新しました。 ②第2四半期に発注し、改修しました。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
更新計画達成率	(更新件数/更新計画件数)×100	%	100	100			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
基本的には庁舎修繕計画をベースとして設備等の改修を計画的に進めていきますが、定期的に設備の劣化状況等を点検しながら必要に応じて計画を見直す必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築
主要施策	2-1　水道施設の耐震化と更新
実現方策	（3）管路の耐震化と更新

担当課	施設課建設係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
管路整備事業	設計・工事			
事業費（千円）	259,000	605,133	334,620	432,700

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
管路整備事業	設計・工事			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	293,202	591,734	619,931	631,730
事業概要（目的）	地震による管路への被害や給水への影響を軽減することを目的とし、施設の重要度、緊急性、更新時期などを考慮し、耐震管（GX形ダクタイル鋳鉄管等）への更新を行っています。企業団では、（A）他団体関連事業（B）老朽管事業（C）新設管事業（D）基幹管路整備事業（E）配水池整備事業（F）橋梁管事業（G）応急給水整備事業の７事業に大別し耐震化を進めています。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	・管路整備事業計画に基づき設計及び工事を実施します。 ・R3実施事業：(A)(B)(C)	・管路整備事業計画に基づき設計及び工事を実施します。 ・R4実施事業：(A)(B)(C)(D)	・管路整備事業計画に基づき設計及び工事を実施します。 ・R5実施事業：(A)(B)(C)(D)	・管路整備事業計画に基づき設計及び工事を実施します。 ・R6実施事業：(A)(B)(C)(D)
達成及び進捗状況	関連工事で延期がありましたが、単独工事は順調に完了しました。	委託は全て発注済又は起工伺い中です。工事は、単独工事は順調に進んでいますが、県関連工事は、３工事中１工事のみの発注に終わっています。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
管路の更新率 (PI B504)	(更新された管路延長/管路延長）×100	%	0.8	0.6			
管路の耐震管率 (PI B605)	(耐震管延長/管路延長）×100	%	20	12.2			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	C：低い			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	A：高い			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
関連工事は主体事業者の発注に左右されるため、計画どおりに更新が進んでいません。また、材料単価及び労務単価の高騰により、更新率が右肩下がり傾向にあります。更新率を上げるためには、工事経費削減策あるいは関連工事が延期された場合の代替工事の振替え等の検討が必要となります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築
主要施策	2-2　危機管理対策の充実
実現方策	（1）応急給水体制の充実

担当課	総務課総務係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
構成団体との連携強化	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
構成団体との連携強化	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	災害等の有事の際、迅速に応急給水が実施できるよう、構成団体（春日市、那珂川市）が実施する防災訓練に参加するとともに、構成団体と有事の際の応急給水体制に関する協議を定期的に行うことで、構成団体との連携強化に努めます。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	構成団体が主催する防災訓練に参加します。	構成団体が主催する防災訓練に参加します。また、有事の際の連携に向けた協議を定期的に行います。	構成団体が主催する防災訓練に参加します。また、有事の際の連携に向けた協議を定期的に行います。	構成団体が主催する防災訓練に参加します。また、有事の際の連携に向けた協議を定期的に行います。
達成及び進捗状況	新型コロナウィルス拡大蔓延防止のため、両市とも防災訓練は中止となりました。	構成団体が主催する防災訓練に参加しました(6月)。　構成団体と今後の訓練に関する協議を行いました(11月)。		
	△：遅滞・取組不足			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
合同防災訓練実施回数	構成団体主催の防災訓練への参加回数	回/年	2	0			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	評価なし			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	評価なし			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	評価なし			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
構成団体との協議においては、構成団体の最新の危機管理体制の情報収集に努めるとともに、当企業団の危機管理体制も同様に見直していく必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築
主要施策	2-2　危機管理対策の充実
実現方策	（1）応急給水体制の充実

担当課	浄水課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
応急給水栓の点検	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
応急給水栓の点検	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	災害が発生した際に、迅速な応急給水ができるように、原町浄水場及び東隈浄水場に設置している応急給水栓の点検を実施します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	防災訓練の際に、応急給水栓の点検及び動作確認を行い、正常に稼働することを確認します。	防災訓練の際に、応急給水栓の点検及び動作確認を行い、正常に稼働することを確認します。	防災訓練の際に、応急給水栓の点検及び動作確認を行い、正常に稼働することを確認します。	防災訓練の際に、応急給水栓の点検及び動作確認を行い、正常に稼働することを確認します。
達成及び進捗状況	12月に実施した防災訓練時に、応急給水栓の点検及び動作確認を実施し、正常に稼働することを確認しました。	11月に実施した防災訓練時に、応急給水栓の点検及び動作確認を実施し、正常に稼働することを確認しました。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
点検回数	年間の点検回数(防災訓練の回数)	回/年	1	1			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
応急給水栓は、応急給水時の拠点になる重要設備であるため、今後は防災訓練に応急給水栓を使用した訓練を追加するなどして、より実践を想定した訓練を実施する必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築
主要施策	2-2　危機管理対策の充実
実現方策	（2）危機管理訓練の充実

担当課	総務課総務係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
危機管理基準の見直しと事業継続計画の策定	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
危機管理基準の見直しと事業継続計画の策定	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	企業団における危機管理に関する基本計画である危機管理基準について、構成団体との連携や危機管理に関する最新の知見等を踏まえて見直しを図ります。また、緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限に止めつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするための事業継続計画（BCP）について、ケース別の計画を計画的に策定します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	危機管理基準について、職員の異動等に伴う変更を行うとともに、内容の見直しについて検討します。また、新型コロナウイルスに係るBCPを策定します。	危機管理基準について、職員の異動等に伴う変更を行うとともに、内容の見直しについて検討します。また、BCPの策定計画を策定します。	危機管理基準について、職員の異動等に伴う変更を行うとともに、内容の見直しについて検討します。また、BCPの策定計画を策定します。	危機管理基準について、職員の異動等に伴う変更を行うとともに、内容の見直しについて検討します。また、策定計画に基づき、BCPを策定します。
達成及び進捗状況	危機管理基準について、職員の異動等に伴う変更を行いました。また、新型コロナウイルスに係るBCPを策定し、運用を開始しました。	危機管理基準について、職員の異動等に伴う変更を行いました。しかし、BCPの策定計画については策定できませんでした。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
危機管理基準等見直し回数	危機管理基準等を見直した回数	回/年	1	1			
事業継続計画策定進捗率	事業継続計画策定計画に対する進捗率	%	100	100			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
危機管理基準については、構成団体との連携を見据えた見直しが必要です。 事業継続計画については、地震、風水害等の災害別に策定する必要があるため、優先順位及び策定時期の設定が重要になります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築
主要施策	2-2　危機管理対策の充実
実現方策	（2）危機管理訓練の充実

担当課	総務課総務係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
計画的な訓練の実施と見直し	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
計画的な訓練の実施と見直し	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	危機管理基準を踏まえた防災訓練及び他事業体との共同防災訓練を実施するとともに、（一般社団法人）日本水道協会が主催する九州地区合同防災訓練に参加することにより、災害発生時に迅速に対応できる体制を構築します。また、訓練内容についても、様々な災害に対応できるよう、他事業体と協議を行うなどして、常に見直しを図ります。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	企業団単独の防災訓練を年２回実施します。また、大野城市と合同訓練をR4より実施するため、互いの訓練を見学し、訓練内容等を協議します。	企業団単独の防災訓練を年２回実施します。また、大野城市との合同訓練を年１回実施します。また、今後の合同訓練内容等について協議を行います。	企業団単独の防災訓練を年２回、大野城市との合同訓練を年１回実施するとともに、災害時応援協定を結んでいる自治体との合同訓練について検討します。また、九州地区合同防災訓練に参加します。	企業団単独の防災訓練を年２回、大野城市との合同訓練を年１回、災害時応援協定締結自治体との合同訓練を年１回実施します。また、九州地区合同防災訓練に参加します。
達成及び進捗状況	企業団単独の防災訓練を年1回実施（12月）。大野城市と互いの防災訓練を見学し、合同訓練に向けた協議を行いました（11月）。	企業団単独の防災訓練を年２回実施（12月、３月）。大野城市との合同訓練を実施するとともに、訓練の反省点及び内容見直しについて協議しました。		
	△：遅滞・取組不足			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
訓練実施回数	年間の訓練実施回数	回/年	2	1			
合同防災訓練実施回数	他事業体との合同防災訓練の実施回数	回/年	2	0			
訓練参加率	(訓練参加職員数/全職員数)×100	%	100	100			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
災害発生時には、瞬時に的確な判断を下す能力や指示能力を発揮させることが必要不可欠なため、今後も継続的に訓練を実施する必要があります。また、大規模災害の際は、他事業体と協力して対応する場面もあるため、共同で防災訓練を実施し、危機管理体制の充実を図る必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築
主要施策	2-2　危機管理対策の充実
実現方策	（2）危機管理訓練の充実

担当課	浄水課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
浄水場における危機管理訓練	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
浄水場における危機管理訓練	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	災害時も継続的に浄水処理を維持できるよう、各浄水場毎に運転状況や水源状況、薬品・燃料状況を把握し、また薬品業者の配送状況などを確認するための訓練を行います。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	年1回浄水場毎に訓練を実施します。（浄水場・取水場・薬品の現状確認様式記入による訓練）	年1回浄水場毎に訓練を実施します。（浄水場・取水場・薬品の現状確認様式記入による訓練）	年1回浄水場毎に訓練を実施します。（浄水場・取水場・薬品の現状確認様式記入による訓練）	年1回浄水場毎に訓練を実施します。（浄水場・取水場・薬品の現状確認様式記入による訓練）
達成及び進捗状況	各浄水場毎に年１回訓練を実施しました。また、訓練に合わせて、燃料調達及び薬品納入業務契約時期の検討並びに災害時の薬品納入の是非確認を行いました。	各浄水場毎に年１回訓練を実施しました。また、訓練に合わせて、燃料調達及び薬品納入業務契約時期の検討並びに災害時の薬品納入の是非確認を行いました。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
訓練実施回数	年間の訓練実施回数	回/年	1	1			
訓練参加率	(訓練参加浄水課職員数/浄水課職員数)×100	%	100	100			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
現在の訓練内容について、実施結果を踏まえて、今後訓練が必要な事項について洗い出しを進め、見直しを進めていく必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築
主要施策	2-2　危機管理対策の充実
実現方策	（3）災害用資機材等の備蓄

担当課	浄水課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
３浄水場災害用資機材の確保	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
３浄水場災害用資機材の確保	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	災害や事故等により破損した設備等の応急復旧に使用する資機材を浄水場の倉庫に保管していますが、災害時に迅速に資機材を使用できるよう、災害用資機材の更新や整理を実施し、適正な管理に務めます。また、薬品及び燃料についても、応急復旧後、すぐに浄水処理を再開できるよう、資機材同様、在庫確認及び品質管理を徹底します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	年１回資機材の棚卸を実施します。また、オイルシート等の消耗備品については、常時必要数を確保します。薬品及び燃料については、随時残量を把握し、随時必要量を確保します。	年１回資機材の棚卸を実施します。また、オイルシート等の消耗備品については、常時必要数を確保します。薬品及び燃料については、随時残量を把握し、随時必要量を確保します。	年１回資機材の棚卸を実施します。また、オイルシート等の消耗備品については、常時必要数を確保します。薬品及び燃料については、随時残量を把握し、随時必要量を確保します。	年１回資機材の棚卸を実施します。また、オイルシート等の消耗備品については、常時必要数を確保します。薬品及び燃料については、随時残量を把握し、随時必要量を確保します。
達成及び進捗状況	12月の防災訓練の際に、棚卸を実施しました。また、オイルシート等の消耗備品については、随時在庫補充を行い、常時必要数を確保しました。薬品及び燃料については、随時必要量を確保しました。	12月の防災訓練の際に、棚卸を実施しました。また、オイルシート等の消耗備品については、随時在庫補充を行い、常時必要数を確保しました。薬品及び燃料については、随時必要量を確保しました。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
薬品備蓄日数 (PI B609)	(最低凝集剤貯蔵量/凝集剤一日平均使用量)又は(最低塩素剤貯蔵量/塩素剤一日平均使用量)のうち小さい方の値	日	30	25.3			
燃料備蓄日数 (PI B610)	平均燃料貯蔵量/一日燃料使用量	日	0.5	0.7			
資機材棚卸回数	資機材が必要数そろっているか棚卸を実施した回数	回/年	1	1			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
資機材のうちオイルシート等の消耗備品について、使用中に在庫不足が生じた際の迅速な調達方法を確立させる必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築
主要施策	2-2　危機管理対策の充実
実現方策	（3）災害用資機材等の備蓄

担当課	総務課総務係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
災害用消耗品の備蓄（食料品）	継続実施			
事業費（千円）	108	108	108	108

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
災害用消耗品の備蓄（食料品等）	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	90	208	18	112
事業概要（目的）	危機管理基準の規定に基づいて備蓄する防災備蓄用品のうち、食料品については、賞味期限や保存年限による入替が必要になりますが、定期的な在庫管理及び計画的な入替を実施することで、常時必要数を確保します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	防災備蓄用品の棚卸（年１回）並びに食料品の賞味期限及び保存年限の確認及び入替えを実施します（随時）。	防災備蓄用品の棚卸（年１回）並びに食料品の賞味期限及び保存年限の確認及び入替えを実施します（随時）。	防災備蓄用品の棚卸（年１回）並びに食料品の賞味期限及び保存年限の確認及び入替えを実施します（随時）。また、保管場所の見直しを行います。	防災備蓄用品の棚卸（年１回）並びに食料品の賞味期限及び保存年限の確認及び入替えを実施します（随時）。
達成及び進捗状況	危機管理基準の更新に合わせて防災備蓄用品の棚卸を実施しました。食料品については、入替えが不十分のため、賞味期限切れが混在しています。 △：遅滞・取組不足	危機管理基準の更新に合わせて防災備蓄用品の棚卸を実施しました。食料品については、必要数を50人×7日分に見直すとともに、確認及び入替えを実施しました。		

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
食料品備蓄日数	職員１人あたりの食料品×日数	日/人	7	5			
食料品棚卸回数	食料品等が必要数そろっているか棚卸を実施した回数	回/年	1	1			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	C：低い			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	C：低い			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	C：低い			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
食料品については、賞味期限及び保存年限が種類別に異なることから管理が煩雑化しています。また、職員一人当たり７日分を確保する必要があるため、栄養面等を考慮した食料品の構成に見直す必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築
主要施策	2-2　危機管理対策の充実
実現方策	（3）災害用資機材等の備蓄

担当課	施設課維持係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
応急給水用備蓄計画	継続実施			
事業費（千円）	1,196	2,317	2,289	2,289

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
応急給水用備蓄計画	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	1,196	1,650	1,155	1,155
事業概要（目的）	災害等により断水となった場合に、臨時的に応急給水を行うために必要な応急給水栓などの資機材や給水袋等を計画的に購入します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	応急給水用品年次備蓄計画に基づき、資機材及び給水袋等を購入します。また、年１回棚卸を実施し、在庫管理を徹底します。	応急給水用品年次備蓄計画に基づき、資機材及び給水袋等を購入します。また、年１回棚卸を実施し、在庫管理を徹底します。	応急給水用品年次備蓄計画に基づき、資機材及び給水袋等を購入します。また、年１回棚卸を実施し、在庫管理を徹底します。	応急給水用品年次備蓄計画に基づき、資機材及び給水袋等を購入します。また、年１回棚卸を実施し、在庫管理を徹底します。
達成及び進捗状況	計画どおりに購入しました。また、防災訓練に合わせて資機材の棚卸を実施しました。	1月に入札を行い、3月末までに必要数を購入する予定です。また、3月に資機材の棚卸を実施しました。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
備蓄計画達成率	(購入件数/購入計画件数)×100	%	100	100			
資機材棚卸回数	資機材が必要数そろっているか棚卸を実施した回数	回/年	1	1			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	A：高い			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	A：高い			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
応急給水用品年次備蓄計画に基づく応急給水用品を購入していくうえで、収納場所の確保が困難となりつつあるため、新たな収納場所の確保を検討する必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築
主要施策	2-2　危機管理対策の充実
実現方策	（4）セキュリティ対策の充実

担当課	総務課総務係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
セキュリティ・ポリシーの充実	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
セキュリティ・ポリシーの充実	継続実施			
	セキュリティポリシーの見直し			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	当企業団では、情報セキュリティ対策として、平成25年度に「春日那珂川水道企業団情報セキュリティポリシー」を策定していますが、策定から約10年が経過し、情報セキュリティを取り巻く環境も変化していることから、必要に応じて内容の見直しを行い、情報セキュリティ対策に万全を期します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	セキュリティポリシーに基づいて、情報セキュリティ対策を実施します。 ・職員への情報提供（迷惑メール数等）（週1回） ・情報セキュリティ対策研修の実施	セキュリティポリシーに基づいて、情報セキュリティ対策を実施します。 ・職員への情報提供（迷惑メール数等）（週1回） ・情報セキュリティ対策研修の実施	セキュリティポリシーに基づいて、情報セキュリティ対策を実施するとともに、見直しに向けて課題抽出を行います。 ・職員への情報提供（迷惑メール数等）（週1回） ・情報セキュリティ対策研修の実施	セキュリティポリシーに基づいて、情報セキュリティ対策を実施するとともに、抽出された課題をもとに、必要に応じて見直しを行います。 ・職員への情報提供（迷惑メール数等）（週1回） ・情報セキュリティ対策研修の実施
達成及び進捗状況	職員への情報提供を行うとともに、情報セキュリティ対策研修をeラーニング形式で実施しました。	職員への情報提供を行いましたが、情報セキュリティ対策研修については、研修内容及び開催時期が整わなかったため、実施を見送りました。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
情報漏洩件数	個人情報等の漏洩件数	件/年	0	0			
研修会開催回数	情報セキュリティーに関する研修会の実施回数	回/年	1	1			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
現在のセキュリティポリシーについて、最新の脅威に対応できるよう、見直しを図ることが必要ですが、情報セキュリティ対策を実行性のあるものにするためには、職員への周知等が重要であり急務です。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築
主要施策	2-2　危機管理対策の充実
実現方策	（4）セキュリティ対策の充実

担当課	総務課財政係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
ネットワークシステムの更新	継続実施			
事業費（千円）	2,407	8,264	21,467	2,813

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
ネットワークシステムの更新	継続実施			
		調査・更新		
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	2,405	7,962	18,637	19,448
事業概要（目的）	ネットワークに必要な機器類の維持管理及び更新を計画的に行っていますが、既存のネットワークの調査を全庁的に行い、利便性、効率性を図り、セキュリティ面も考慮して、当企業団に適したネットワークシステムに更新します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	ネットワークに必要な機器類の維持管理を行うとともに、職員用PCを更新します（13台）。	全庁的なネットワーク調査を行い、その結果により、最適なネットワーク構築の検討を行います。	ネットワーク構築計画に基づく更新（ﾌｧｲﾙｻｰﾊﾞ-更新、LAN配線及びHUB更新、EDR、IT資産管理、ﾒｰﾙｾｷｭﾘﾃｨ強化、ｻｰﾊﾞ-等移設）を実施します。	ネットワーク構築計画に基づく更新（(仮)ｽｲｯﾁ更新、PC更新（25台）、ﾒｰﾙｾｷｭﾘﾃｨ強化②）及びセキュリティ意識向上トレーニング等を実施します。
達成及び進捗状況	ネットワークに必要な機器類の維持管理に係る保守を委託するとともに、新人3人分を含め、PC13台とモニター３台を購入しました。	ネットワーク構築計画を策定し、R5以降に予算要求のうえ実施予定です。また、PC５台を購入しました。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値 R3	実績値 R4	実績値 R5	実績値 R6
計画に対する進捗率	PC更新計画(～R3)に対する進捗率	%	100	100			
更新計画の策定	R4ネットワーク調査結果を基に更新計画を策定する	%	100				
計画に対する進捗率	更新計画(R4～)に対する進捗率	%	100				

評価

評価の視点	評価項目	評　価 R3	評　価 R4	評　価 R5	評　価 R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
令和4年度にネットワーク調査を行い、その結果を踏まえ、セキュリティ対策を考慮したネットワークシステムを令和５年度以降に構築する予定であるため、令和５年度以降は変更の可能性があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	2　災害に強い強靭な水道の構築
主要施策	2-2　危機管理対策の充実
実現方策	（4）セキュリティ対策の充実

担当課	施設課建設係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
積算システムの情報管理	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
積算システムの情報管理	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	工事及び設計業務の設計金額積算のために積算システムを導入していますが、情報の目的外使用や外部からの侵入、コンピューターウィルス等による情報漏洩や喪失防止を図るため、情報管理を徹底します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	積算システムの情報管理上の課題を検討するとともに、対応策を決定します。	積算システムを使用する職員の個人パスワードの更新を行います。	積算システムを使用する職員の個人パスワードの更新を行います。	積算システムを使用する職員の個人パスワードの更新を行います。
達成及び進捗状況	課題として第三者閲覧及び情報漏洩防止対策が課題として挙げられ、対応策として、個人パスワードを毎年更新することとしました。	個人パスワードを変更するとともに、異動により使用しなくなった職員の個人パスワードを削除しました。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
情報漏洩件数	設計金額等の漏洩件数	件/年	0	0			
パスワード変更回数	各職員のパスワード変更回数	回/年	1	0			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
今のところ、情報管理に問題は生じていませんが、新たな問題に迅速に対応できるよう、情報収集に努める必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	３　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-1　経営の効率化
実現方策	（１）経費の節減

担当課	浄水課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
太陽光発電による電気料金の削減及び機械脱水汚泥の売却	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
太陽光発電による電気料金の削減及び機械脱水汚泥の売却	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	東隈浄水場に設置している太陽光発電設備については、発電した電力を浄水場の稼働電力に利用することで電気料金の削減を図ります。また、浄水処理で発生する汚泥のうち機械脱水汚泥については、育苗土等に再利用できることから、再利用業者に売却することで収益をあげるとともに、処理費用の削減を図ります。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	太陽光発電については、発電した電力を浄水場稼働電力に利用します。また、パネルの定期的な清掃等により発電効率を維持します。 汚泥売却については、成分分析を行い、情報提供することで売却先の開拓に努め、機械脱水汚泥については、全量の売却を目指します。	太陽光発電については、発電した電力を浄水場稼働電力に利用します。また、パネルの定期的な清掃等により発電効率を維持します。 汚泥売却については、成分分析を行い、情報提供することで売却先の開拓に努め、機械脱水汚泥については、全量の売却を目指します。	太陽光発電については、発電した電力を浄水場稼働電力に利用します。また、パネルの定期的な清掃等により発電効率を維持します。 汚泥売却については、成分分析を行い、情報提供することで売却先の開拓に努め、機械脱水汚泥については、全量の売却を目指します。	太陽光発電については、発電した電力を浄水場稼働電力に利用します。また、パネルの定期的な清掃等により発電効率を維持します。 汚泥売却については、成分分析を行い、情報提供することで売却先の開拓に努め、機械脱水汚泥については、全量の売却を目指します。
達成及び進捗状況	太陽光発電については、年間で611,343kw/h発電し、東隈浄水場稼働電力に利用することで同量の電気料金を削減しました。また、汚泥売却については、622ｔを有償償却し、2月には汚泥の成分分析を行い、その結果から次年度売却先の検討に活用しました。	太陽光発電については、12月までで491,165kw/h発電し、東隈浄水場稼働電力に利用することで同量の電気料金を削減しました。また汚泥売却については、12月までで238ｔを有償償却し、また汚泥の成分分析を行い、その結果から次年度売却先の検討に活用する予定です。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
太陽光発電量	１年間に発生する太陽光発電量(太陽光発電/東隈浄水場全体発電量)	kw/h	19% (過去5年平均)	20%			
浄水発生土(機械脱水機汚泥)の有効利用率	(有効利用土量/浄水発生土量)×100　※機械脱水汚泥のみ	%	100	100%			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
太陽光発電については、時期や時間によっては発電効率が著しく落ちるため、蓄電池等で蓄電することでより効率的な電力利用ができるか否かを検討する必要があります。 汚泥売却については、成分分析項目をこれまでの排水処理項目ではなく、マンガン、レアメタル、活性炭など、再利用しやすい項目での分析を行うなどして、売却先の開拓等を検討する必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-1　経営の効率化
実現方策	（1）経費の節減

担当課	料金課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
量水器の購入計画及び見直し	継続実施			
事業費（千円）	12,605	11,425	9,112	10,161

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
量水器の購入計画見直し	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	10,124	5,517	12,354	10,161
事業概要（目的）	量水器については、現在、耐用年数に伴い交換した量水器を修理して新規量水器として活用するとともに、余剰量水器を売却するなどして、新規量水器の購入費用の節減及び在庫管理の効率化に取り組んでいますが、さらなる経費節減及び在庫管理の効率化に取り組みます。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	耐用年数に伴う量水器交換サイクルを年度単位から半年単位への見直しについて検討します。また、余剰量水器を売却します。	耐用年数に伴う量水器交換サイクルを見直し、年度単位から半年単位へ変更することで量水器の修理個数を削減します。	耐用年数に伴う量水器交換サイクルの更なる見直しについて検討します。	耐用年数に伴う量水器交換サイクルの更なる見直しについて検討します。
達成及び進捗状況	耐用年数に伴う量水器交換サイクルを見直し検討を行った結果、年度単位から半年単位へ変更することとしました。また、余剰量水器を売却しました。	交換サイクルの見直しの結果、修理個数が減少し、修理費用も削減される見込みです(約6,300個→約2,400個)（11,425千円→5,517千円）		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
執行率	(決算額/予算額)×100	%	100以下	84			
量水器棚卸回数	棚卸を実施した回数	回/年	1	1			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか	A：高い			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか	A：高い			
方向性	目的達成に向かっているか 事業実施が目的化していないか	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
耐用年数に伴い交換した量水器の修理については、修理回数に限界があることから、修理に関する基準を定め、計画的に修理を進めていく必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-1　経営の効率化
実現方策	（1）経費の節減

担当課	総務課財政係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
公用車更新	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
公用車更新	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	公用車については、更新基準（原則、登録後15年経過又は走行距離10万km超の公用車）に基づいて計画的に更新します。 なお、組織体制及び委託業務の見直しに伴う公用車の減車を実施し、効果を検証するため、令和６年度までの更新は原則行いません。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	組織体制及び委託体制の見直しにより、２台減車可能なため、2台を廃車し、売却します。	公用車減車の効果を検証するため、更新対象であっても特段走行に支障がない場合は更新せず延命化を図ります。	公用車減車の効果を検証するため、更新対象であっても特段走行に支障がない場合は更新せず延命化を図ります。	公用車減車の効果を検証するため、更新対象であっても特段走行に支障がない場合は更新せず延命化を図ります。
達成及び進捗状況	予定どおり廃車分の２台を売却しました。	更新対象が３台あるものの、特段走行に支障がないため、更新せずに延命化を図りました。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
経年公用車台数	経年（10万キロ以上又は登録後15年以上）公用車の保有台数	台	0	3			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	A：高い			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
普通自動車と軽自動車は使われている部品等の製造コスト、耐久性等が異なるため、更新基準を別々に決めた方が良いか検討する必要があります。また、災害時対応等を含めて総合的な観点から保有台数についても併せて検討する必要があります。なお、劣化状況等により計画見直しが生じる可能性があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-1　経営の効率化
実現方策	（1）経費の節減

担当課	浄水課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
電力契約の検討	調査研究			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
電力契約の検討	調査研究			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	水道事業における電力使用量は、支出の中でも大きなウエイトを占めており、安定供給を前提としながらも、経費節減が見込まれる電力契約の締結が求められます。 電力の自由化の影響により、電力契約の選択肢が増える中、より良い電力契約の締結に向け、他事業体、電力会社からの情報収集等、調査研究を行います。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	他事業体に電力契約状況について聞き取りを行い、電力契約の見直しについて検討します。	電力会社及び新聞等から情報収集し、電力契約に関する情報を整理し、電力契約の見直しについて検討します。	電力会社及び新聞等から情報収集し、電力契約に関する情報を整理し、電力契約の見直しについて検討します。	電力会社及び新聞等から情報収集し、電力契約に関する情報を整理し、電力契約の見直しについて検討します。
達成及び進捗状況	他事業体（筑紫地区及び近隣の水道企業団）に電力供給契約状況の確認を行いました。調査結果を内部協議した結果、R4については、現在の契約を維持することとしました。	電力会社に電力契約に関する聞き取り調査を行いました。また、新聞等でから電力契約に関する情報収集しました。これらの調査結果を内部協議した結果、R5については、現在の契約を維持することとします。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
調査研究結果の報告	電力契約についての調査研究結果の報告書提出回数	回/年	1	1			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
既存の電力会社及び新電力会社ともに、メリット、デメリットがあるため、企業団が電力契約に求める優先順位を確認しながら、慎重に調査研究を進めていく必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	３　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-1　経営の効率化
実現方策	（１）経費の節減

担当課	総務課財政係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
業務用無線機更新			継続実施	
事業費（千円）			400	40

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
業務用無線機更新			継続実施	
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
			0	0
事業概要（目的）	現在、連絡手段の一つとして業務用無線を保有し、基地局を本庁舎に、移動局８局を公用車に設置していますが、そのうち旧規格の移動局の無線機３台については、法改正により使用できなくなるため、公用車の更新時期及び法改正時期に合わせた更新を検討します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等			公用車の更新時期に合わせて旧規格の無線機を更新予定のため更新は行いません。	旧規格の無線機の使用可能期間を確認し、公用車の更新時期に合わせて旧規格の無線機を更新予定です。
達成及び進捗状況				

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
計画に対する進捗率	更新計画に対する進捗率	%	100				

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。				
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。				
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。				

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
災害時等では有効な通信手段の一つと考えられますが、通常時はほとんど使用しておらず、5年毎の再免許申請、数年毎の定期点検、毎年の電波利用料の支払等で費用が掛かっているため、今後の在り方について検討する必要があります。また、旧規格の無線機の使用可能期間及び災害時優先電話(固定及び携帯電話)の実用性を確認する必要もあります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-1　経営の効率化
実現方策	（2）外部委託化の推進

担当課	浄水課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
運転管理業務の見直し及び包括的業務委託の推進	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
運転管理業務の見直し及び包括的業務委託の推進	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	浄水場の運転管理業務については、外部委託していますが、広域化の推進、官民連携の推進及び経営の効率の視点から、運転管理業務の委託範囲のさらなる拡大及び包括的な業務委託の可能性について検討を進めます。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	現在の業務委託内容について見直しに向けた検討を行います(包括的委託ができないか精査を行います。)。	現在の業務委託内容について見直しに向けた検討を行います(包括的委託ができないか精査を行います。)。	これまでの検討結果を踏まえて、次回の業務体委託内容を決定し、委託業者を決定します。	業務委託内容について見直しに向けた検討を行います(包括的委託ができないかさらなる精査を行います。)。
達成及び進捗状況	実際の業務状況を確認し、仕様に問題がないか、また、委託範囲の拡大（包括化）に向けた検討を行いました。検討結果は次回（R6～）の委託内容に反映させる予定です。	実際の業務状況を確認し、仕様に問題がないか、また、委託範囲の拡大（包括化）に向けた検討を行いました。検討結果は次回（R6～）の委託内容に反映させる予定です。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
見直し回数	委託内容の見直しを行った回数	回/年	1	1			
検討報告書提出回数	運転管理見直し等についての検討結果報告書の提出回数	回/年	1	1			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
包括委託に当たっては、単なる経費の節減ではなく、経営の効率化の視点から、組織体制の見直しと合わせて進める必要があります。また、包括化する業務の選定にあたっては、危機管理上の課題についても検討する必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-1　経営の効率化
実現方策	（2）外部委託化の推進

担当課	総務課企画係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
官民連携の検討	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
官民連携の検討	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	水道事業の経費節減や経営の効率化、給水サービスの向上を図ることを目指し、料金課では電話応対・検針等業務、浄水課では浄水場の運転管理を民間委託し、官民連携を図っていますが、さらなる官民連携について可能性を検討します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	管路DBに係るコンセッション方式の検討のため、先進事業体を視察します。 近隣事業体に官民連携状況について情報収集を行います。	管路DBに係るコンセッション方式の検討のため、先進事業体を視察します。 近隣事業体に包括的な委託及び官民連携状況についての情報収集及び検討を行います（竣工検査の委託、薬品管理及び購入を含めた浄水場運転管理等）	包括的な委託及び官民連携手法について、近隣事業体から情報収集及び検討を行います。	包括的な委託及び官民連携手法について、近隣事業体から情報収集及び検討を行います。
達成及び進捗状況	管路DBに係るコンセッション方式の検討のための視察については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止になりました。 官民連携について、近隣事業体１ヶ所ついては、情報収集できたものの、その他近隣事業体については情報は収集できていません。	管路DBに係るコンセッション方式の検討のため、令和５年１月に先進事業体へ視察予定だったが、視察先の都合により視察中止になりました。 竣工検査の委託については、令和５年３月までに他事業体から情報収集予定です。 薬品管理及び購入を含めた浄水場運転管理については、危機管理上のリスクも想定されることから現在も慎重に検討を進めています。		
	△：遅滞・取組不足			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
検討報告書提出回数	官民連携についての検討結果報告書の提出回数	回/年	1	0			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
今後、人口減少に伴う給水収益の減少及び施設の老朽化に伴う更新費用増等が見込まれ、当企業団は更なる経費節減が求められるため、今後は包括的な委託や様々な官民連携手法について導入の可能性を検討し、経営の効率化や経費節減に努める必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-1　経営の効率化
実現方策	（3）組織の合理化と定員管理の適正化

担当課	総務課総務係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
定員管理計画の見直し	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
定員管理計画の見直し	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	組織の合理化及び定員管理の適正化を目的として策定した定員管理計画について、職員の定年延長、広域化の推進、官民連携の推進及び技術の継承といった新たな課題解決に向け、見直しを図ります。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	現状の定員管理計画について、課題抽出を行うとともに、課題解決に向けた見直し案を作成します。	R3に作成した定員管理計画について、運用を図りながら、課題抽出を行い、必要に応じてさらなる見直しを検討します。	現状の定員管理計画について、運用を図りながら、課題抽出を行い、必要に応じてさらなる見直しを検討します。	現状の定員管理計画について、運用を図りながら、課題抽出を行い、必要に応じてさらなる見直しを検討します。
達成及び進捗状況	現状の定員管理計画の見直し案を作成、報告しました。	水道事業ビジョンの推進の視点から企画部門で検討された機構改革案を踏まえて、定員管理計画の見直し案を作成、報告予定です。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
職員一人当たり給水収益(PI C107)	給水収益/損益勘定所属職員数	千円/人	54,000以上	54,904			
技術職員の割合	技術職員/全職員(会計年度任用職員を除く)	%	50	40			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
定員管理計画については、課題が複合的に絡み合っているため、中長期的な視点を持ちつつも、直近の課題解決にも対応した計画になるよう、必要に応じて見直しを進めていく必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	３　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-1　経営の効率化
実現方策	（４）広域化の検討

担当課	総務課企画係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
広域化の検討	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
広域化の検討	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	福岡県が平成18（2006）年10月に策定した福岡地域広域的水道整備計画に掲げる「すいどう広域化」を推進するため、福岡県及び近隣事業体で構成する福岡圏域ブロックにおいて、広域化及びシステム共同化、資材の供給等の実現可能な方策から検討を始め、また、福岡県が令和元（2019）年3月に策定した「福岡県水道ビジョン」において福岡圏域ブロックの問題点や脆弱な部分を指摘されていることから、今後はそれらの情報等も生かしながら、広域化の可能性について調査、研究を進めます。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	近隣事業体に広域化検討状況について情報収集を行います。	引き続き、広域化に関する情報収集に努めつつ、前年度に収集した情報を元に、広域化について検討を進めます（量水器の共同購入等）。	引き続き、広域化に関する情報収集に努めつつ、前年度に収集した情報を元に、広域化について検討を進めます。	引き続き、広域化に関する情報収集に努めつつ、前年度に収集した情報を元に、広域化について検討を進めます。
達成及び進捗状況	近隣事業体に広域化検討状況についての情報収集を行いました。情報収集結果については、取り纏めのうえ、係内で情報を共有しました。次年度は収集した情報を元に具体的に検討を進めます。	広域化については、県外事業体より情報を収集しました。今年度中に再度同事業体より係る情報を収集予定です。 量水器の共同購入について、近隣事業体と協議したものの、量水器の形状及び管理方法が異っていたため、再検討が必要となりました。 議会におけるタブレット端末の共同利用の可否について構成団体へ調査を行いました。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
検討報告書提出回数	広域化についての検討結果報告書の提出回数	回/年	1	○			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
令和３年度に近隣事業体に広域化検討状況について確認したところ、現時点での進展は確認されませんでした。広域化については当企業団だけで達成できるものでは無いため、今後も近隣事業体の広域化状況について継続して情報収集に努める必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-1　経営の効率化
実現方策	（5）業務の効率化と高度化

担当課	浄水課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
運転管理業務の見直し及び包括的業務委託の推進	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
運転管理業務の見直し及び包括的業務委託の推進	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	浄水場の運転管理業務については、外部委託していますが、広域化の推進、官民連携の推進及び経営の効率の視点から、運転管理業務の委託範囲のさらなる拡大及び包括的な業務委託の可能性について検討を進めます。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	現在の業務委託内容について見直しに向けた検討を行います(包括的委託ができないか精査を行います。)。	現在の業務委託内容について見直しに向けた検討を行います(包括的委託ができないか精査を行います。)。	これまでの検討結果を踏まえて、次回の業務体委託内容を決定し、委託業者を決定します。	業務委託内容について見直しに向けた検討を行います(包括的委託ができないかさらなる精査を行います。)。
達成及び進捗状況	実際の業務状況を確認し、仕様に問題がないか、また、委託範囲の拡大（包括化）に向けた検討を行いました。検討結果は次回（R6～）の委託内容に反映させる予定です。	実際の業務状況を確認し、仕様に問題がないか、また、委託範囲の拡大（包括化）に向けた検討を行いました。検討結果は次回（R6～）の委託内容に反映させる予定です。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
見直し回数	委託内容の見直しを行った回数	回/年	1	1			
検討報告書提出回数	運転管理見直し等についての検討結果報告書の提出回数	回/年	1	1			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
包括委託に当たっては、単なる経費の節減ではなく、経営の効率化の視点から、組織体制の見直しと合わせて進める必要があります。また、包括化する業務の選定にあたっては、危機管理上の課題についても検討する必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-1　経営の効率化
実現方策	（5）業務の効率化と高度化

担当課	施設課建設係
事業種別	完了

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
積算システムの更新	継続実施			
事業費（千円）	1,272	1,282	1,282	1,282

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
積算システムの更新	完了			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	1,272	1,260	1,260	1,260
事業概要（目的）	工事及び設計業務の設計金額積算のために積算システムを導入していますが、令和３年度末で契約満了となるため、業務の効率化及び高度化の視点から、積算システムの更新を行います。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	現積算システムを含む水道に特化した複数の積算システムを比較検討し、更新を行います。			
達成及び進捗状況	比較検討のうえ、更新先を決定し、令和４年３月に契約を締結しました。			
	◎：完了			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
計画に対する進捗率	更新計画に対する進捗率	%	100	100			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	A：高い			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
システム化が進み便利になる一方で、単価に誤りがあった場合、単価更新後には気付きにくいため、単価更新にあっては同種材料における増減率も確認しながら行う必要があります。	◎：完了

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-1　経営の効率化
実現方策	（5）業務の効率化と高度化

担当課	施設課建設係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
竣工図面電子化業務	継続実施			
事業費（千円）	396	308	500	500

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
竣工図面電子化業務	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	396	308	308	500
事業概要（目的）	工事事績（写真、完成図）の電子化を行うことで長期的且つ安全に保管しつつ閲覧を容易にし、また、マッピングシステムと共有化することで、地下埋設物調査等の窓口業務の効率化を図ります。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	６月上旬に発注し10月末を目途に業務を終えるとともに、マッピングシステムに反映させます。	６月上旬に発注し10月末を目途に業務を終えるとともに、マッピングシステムに反映させます。	６月上旬に発注し9月末を目途に業務を終えるとともに、マッピングシステムに反映させます。	６月上旬に発注し9月末を目途に業務を終えるとともに、マッピングシステムに反映させます。
達成及び進捗状況	予定通り６月に発注、10月に業務完了し、マッピングシステムにも反映しました。	予定通り６月に発注、10月に業務完了し、マッピングシステムにも反映しました。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
業務執行率	(実際の委託件数/電子化対象件数)×100	%	100	100			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	A：高い			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
特に課題はなく、長期保存を実現するとともに、地下埋設物調査においては特に効力を発揮しています。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-1　経営の効率化
実現方策	（5）業務の効率化と高度化

担当課	料金課
事業種別	完了

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
水道料金システムの更新	継続実施			
事業費（千円）	5,563	10,229	2,375	2,375

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
水道料金システムの更新	完了			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	8,647			
事業概要（目的）	上下水道料金の使用者の情報管理および検針、請求、収納、滞納、 統計資料作成及び給水受付管理などの業務を統合的に管理するシステムを構築のうえ更新します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	給水受付システムの有効利用及びスマートフォン検針の導入のため、システムのカスタマイズを行い、システムの構築（更新）を完了します。			
達成及び進捗状況	システムのカスタマイズを行い、システムの構築（更新）は完了しました。			
	◎：完了			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
計画に対する進捗率	更新計画に対する進捗率	%	100	100			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか	A：高い			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
現在の水道料金システムは、５年前に導入後、構築を進め、令和３年度をもって構築（更新）が完了しましたが、今後も継続利用を予定しているため、システムの冗長化を図り、異状発生時においてもシステムが停止することがないよう運用を継続していく必要があります。	◎：完了

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-1　経営の効率化
実現方策	（5）業務の効率化と高度化

担当課	総務課総務係
事業種別	完了

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
給与システムの更新	継続実施			
事業費（千円）	2,480	1,530	1,530	1,530

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
給与システムの更新	完了			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	2,150			
事業概要（目的）	職員の給与計算等のために給与システムをオンプレミス方式で導入していますが、業務の効率化と高度化を図りつつ、データ等をより安全に格納できる環境を構築することを目的に更新します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	現在のシステムの稼働状況等を踏まえて、給与システムの更新について検討し、更新を行います。			
達成及び進捗状況	現システムの稼働状況等を踏まえ、オンプレミス形式からクラウド形式にて更新しました。			
	◎：完了			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
計画に対する進捗率	更新計画に対する進捗率	%	100	100			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
今後、クラウド方式によるシステムの稼働状況等を踏まえながら課題を抽出し、必要に応じて見直しを図る必要があります。	◎：完了

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-1　経営の効率化
実現方策	（5）業務の効率化と高度化

担当課	総務課財政係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
公営企業会計システムの更新	継続実施			
事業費（千円）	2,606	2,606	2,606	907

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
公営企業会計システムの更新	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	2,606	2,606	2,606	907
事業概要（目的）	水道事業の経営上、予算・決算処理、固定資産の減価償却管理、企業債の管理等には会計システムは必要不可欠なシステムであり、公営企業会計を熟知したシステム業者とも連携しながら、より効率的かつ適正な会計処理を行います。また、さらなる効率化及び高度化を図るため、更新について検討を進めます。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	現行システムの稼働状況等を確認するとともに、問題点等の抽出を行います。	現行システムの稼働状況等を確認するとともに、現行システムのメリット・デメリットの抽出を行います。	現行システムの稼働状況等を確認するとともに、これまでの現行システムに関する抽出項目を踏まえて次期システムの検討を行い、更新計画を策定します。	更新計画に基づいて、現行システムの再リースの可能性及び次期システム導入について検討します。
達成及び進捗状況	現行システムは特段問題なく稼働しており、現時点で問題点等はありません。	現行システムは特段問題なく稼働しており、現時点で問題点等はありません。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
更新計画の策定	具体的な更新時期、更新方法等を定めた計画策定の進捗率	%	100	100			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
次期システムを検討する際、システムの形式により一長一短あるため、オンプレミスにするかクラウドにするか等を総合的に検討する必要があります。なお、現行システムはH31～R5の5年リース＋R6～R7の再リースを予定しておりますが、R7は再リース不可の可能性があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-1　経営の効率化
実現方策	（6）アセットマネジメントによる効率的な経営

担当課	総務課企画係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
アセットマネジメント策定業務委託検討	調査研究			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
アセットマネジメント策定業務委託検討	簡易ツールによるマクロマネジメント(3-C)の検討	簡易ツールによるマクロマネジメント(3-C)の実施	簡易ツールによるマクロマネジメント(3-C)の検討、実施	
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	7,436
事業概要（目的）	水道事業ビジョン策定時に実施した更新需要及び経営戦略策定時の財政情報を元に簡易ツールによるマクロマネジメント（3-C)を実施するとともに、①水道施設台帳を活用した更新需要の精度向上及び平準化、②広域化及び委託方法多様化による更新需要の削減、③適正な最低確保資金残高及び内部留保資金の設定、④起債額の設定方法の見直し及び⑤水需要予測の定期定な見直しによる有収水量算定精度向上といった課題を解決し、より精度の高いマクロマネジメントの実施に向けた業務委託について調査検討を行います。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	水道事業ビジョン策定時に実施した更新需要及び経営戦略策定時の財政情報を元に簡易ツールによるマクロマネジメント（3-C)が実施可能か検討します。	水道事業ビジョン策定時に実施した更新需要及び経営戦略策定時の財政情報を元に簡易ツールによるマクロマネジメント（3-C)を実施し、様式18(1)(2)を出力します。	R6の経営戦略改定及びビジョンの中期実施計画策定にあたり、水道施設台帳システムを高度活用した、より精度の高いマクロマネジメントの実施に向けた検討を行います。	R5の検討結果を踏まえ、必要に応じて、簡易ツールによるマクロマネジメント（3-C)を実施し、様式18(1)(2)を出力するとともに、経営戦略改定及びビジョンの中期実施計画策定に反映します。
達成及び進捗状況	実施可能かビジョン策定委託業者に確認し、実施可能との回答を得ました。ただし、実施はR4, 4月以降になります。	水道事業ビジョン策定時に実施した更新需要及び経営戦略策定時の財政情報を元に簡易ツールによるマクロマネジメント（3-C)を実施し、様式18(1)(2)を出力しました(4月)		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
策定に係る協議回数	策定に関して検討、協議した回数	年/回	1	2			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
①水道事業ビジョン（実施計画含む）及び経営戦略の見直しの前段として、アセットマネジメントによる更新需要及び財政見通しの算出が必要なため、ビジョン及び経営戦略の見直し時期を踏まえた実施スケジュールの早期確立が課題です。 ②R4に実施したアセットマネジメントにおいて各種課題が見つかったため、次回アセットマネジメント実施までに解決を図る必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-1　経営の効率化
実現方策	（7）国・県への要望

担当課	浄水課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
河川における堆砂除去及び河川の水質安定化	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
水源安定化にむけた要望	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	昭和46年林野庁の通達に基づき、佐賀県吉野ヶ里町（旧神崎郡東背振村）山中に2,4,5-T系除草剤が国により埋設されており、埋設位置が水道水源である南畑・五ヶ山ダムを含む那珂川水系の上流であることから、平成4年度より毎年、国に対し移設又は無害化処理等の要望を行っており、今後も継続して行っていきます。また、豪雨により河川に土砂が堆積し、取水に支障を来すことがあるため、必要に応じて河川管理者に堆砂除去の要望を行います。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	2,4,5-T系除草剤の移設又は無害化処理等の要望を国に行います。また、豪雨により河川に土砂が堆積した場合は、必要に応じて河川管理者に除去を要望します。	2,4,5-T系除草剤の移設又は無害化処理等の要望を国に行います。また、豪雨により河川に土砂が堆積した場合は、必要に応じて河川管理者に除去を要望します。	2,4,5-T系除草剤の移設又は無害化処理等の要望を国に行います。また、豪雨により河川に土砂が堆積した場合は、必要に応じて河川管理者に除去を要望します。	2,4,5-T系除草剤の移設又は無害化処理等の要望を国に行います。また、豪雨により河川に土砂が堆積した場合は、必要に応じて河川管理者に除去を要望します。
達成及び進捗状況	2,4,5-T 系除草剤に係る要望を国に行いました（8月）。河川管理者への堆砂除去は、堆砂がなかったため行いませんでした。	2,4,5-T 系除草剤に係る要望を国に行いました（9月）。また国より試料採取が9月に行われました。河川管理者への堆砂除去は、10月時点は堆砂がないため行っていません。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
要望回数	実際に国、県に要望した回数	年/回	1	1			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
2,4,5-T系除草剤については、移設又は無害化処理に向けて、今年度ボーリング調査を行う説明を受けましたが、今後も移設又は無害化処理が早期に、確実に実行されるよう調査結果の報告を注視する必要があり、また要望を継続する必要があります。	△：変更

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-2　お客さまとのコミュニケーション
実現方策	（1）水道事業の啓発

担当課	総務課総務係
事業種別	完了

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
ホームページの更新	継続実施			
事業費（千円）	500	650	650	650

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
ホームページの更新	完了			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	715			
事業概要（目的）	春日那珂川水道企業団公式webサイトについて、住民目線で、より多く閲覧・活用が見込めるよう、さらに緊急災害時にも、安定的に継続して情報発信を実現できる環境を構築することを目的として更新を行います。なお、更新に当たっては、機能性、デザイン性があり、住民に親しみやすいものとし、職員が効率的かつ容易に記事等の更新ができるものとします。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	ホームページを更新し、住民がよく閲覧するページを上に配置したり、ページ数を整理します。また、ホームページ担当課だけではなく、各課においてもホームページの記事等の更新ができるようにします。			
達成及び進捗状況	予定通りホームページを更新し、住民がより閲覧・活用しやすいよう見直しを行いました。また、各課で記事等の更新ができるようになり、タイムリーな情報提供が可能になりました。			
	◎：完了			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
計画に対する進捗率	更新計画に対する進捗率	%	100	100			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
住民のニーズは常に変化しているため、情報収集に努め、ニーズに合わせてよりよいものにアップデートしていく必要があります。	◎：完了

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-2　お客さまとのコミュニケーション
実現方策	（1）水道事業の啓発

担当課	総務課総務係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
イベントの実施	継続実施			
事業費（千円）	19	150	150	150

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
イベントの実施	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	6	99	200	200
事業概要（目的）	水道事業の取組や課題について住民に理解や協力を得るため、水道週間や構成団体で行われる行事の際に、水道事業啓発のイベントを行います。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	水道週間の際にティッシュ配布、市内の小中学校にポスターの掲示等のイベントを行います。	水道週間の際にティッシュ配布、市内の小中学校にポスターの掲示及びTwitterを利用した住民参加型のイベントを実施します。	水道週間の際にイベントを実施します。なお、イベントの内容については、若手職員によるプロジェクトチームにて決定します。	水道週間の際にイベントを実施します。なお、イベントの内容については、若手職員によるプロジェクトチームにて決定します。
達成及び進捗状況	新型コロナウイルス感染拡大のためティッシュ配布等の接触型のイベントは取りやめ、市内の小中学校へのポスター掲示等の非接触型のイベントを行いました。	新型コロナウイルス感染拡大のためティッシュ配布等の接触型イベントは取りやめ、市内の小中学校にポスターの掲示及びTwitterを利用した水道クイズの開催等、非接触型のイベントを行いました。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
イベント開催回数	水道啓発のためのイベントの開催回数	回/年	1	1			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
新型コロナウイルス感染拡大のためイベントを非接触型で開催しました。今後は、感染終息を見据えながら、住民とより一層コミュニケーションを深めることのできるイベントの開催について、アイデアを練っていく必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-2　お客さまとのコミュニケーション
実現方策	（2）広報広聴活動の充実

担当課	施設課維持係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
給水装置の維持管理方法の情報発信	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
給水装置の維持管理方法の情報発信	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	配水管から分岐した給水装置は、使用されるお客様の財産であることの周知を含め、漏水した際の修理区分や冬季における凍結に対する注意・啓発を行います。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	広報紙により年１回、給水装置の維持管理に関する記事を、また、毎年12月号に冬季における水道管の凍結防止について注意喚起の記事を掲載します。また、HPで指定給水装置工事事業者の情報更新を毎月行います。	広報紙により年１回、給水装置の維持管理に関する記事を、また、毎年12月号に冬季における水道管の凍結防止について注意喚起の記事を掲載します。また、HPで指定給水装置工事事業者の情報更新を毎月行います。	広報紙により年１回、給水装置の維持管理に関する記事を、また、毎年12月号に冬季における水道管の凍結防止について注意喚起の記事を掲載します。また、HPで指定給水装置工事事業者の情報更新を毎月行います。	広報紙により年１回、給水装置の維持管理に関する記事を、また、毎年12月号に冬季における水道管の凍結防止について注意喚起の記事を掲載します。また、HPで指定給水装置工事事業者の情報更新を毎月行います。
達成及び進捗状況	R3年7月号に給水装置関連記事を、12月号に凍結関連記事を掲載。また、HPにおける指定給水装置工事事業者情報の更新を2.3月ごとにまとめて行いました。	R4年7月号に給水装置関連記事を掲載し、12月号に凍結関連記事を掲載しました。また、HPにおける指定給水装置工事事業者情報の更新を行っています。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
広報紙掲載回数	給水装置に関する情報の掲載回数	回/年	2	2			
ＨＰ更新回数	指定給水装置工事事業者に関する情報の更新回数	回/年	12	5			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
今後も、掲載内容などを工夫しながら注意、啓発を行っていく必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-2　お客さまとのコミュニケーション
実現方策	（2）広報広聴活動の充実

担当課	総務課総務係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
情報公開制度の徹底、水レター記事の充実	継続実施			
事業費（千円）	2,918	2,918	2,918	2,918

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
情報公開制度の徹底、水レター記事の充実	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	2,644	2,756	4,251	3,007
事業概要（目的）	住民の知る権利を尊重し、公文書の開示及び情報提供の推進に関し必要な事項を定めることにより、住民の理解と信頼を深め、公正で開かれた水道事業運営に資することを目的として情報公開制度を設けていますが、運用にあたっては各種根拠規程に基づいた運用を徹底します。また、年３回発行している広報紙「水レター」について、住民ニーズに合わせた記事掲載等、充実を図ります。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	情報公開制度を適切に運用して情報の開示及び提供を行います。また、水レターを年3回発行し、住民ニーズに合わせた情報を提供します。	情報公開制度を適切に運用して情報の開示及び提供を行います。また、水レターを年3回発行し、住民ニーズに合わせた情報を提供します。	情報公開制度を適切に運用して情報の開示及び提供を行うとともに、個人情報保護条例の改正に合わせて制度の見直しを行います。また、水レターを年3回発行し、住民ニーズに合わせた情報を提供します。	情報公開制度を適切に運用して情報の開示及び提供を行います。また、水レターを年3回発行し、住民ニーズに合わせた情報を提供します。
達成及び進捗状況	情報公開制度に基づいた運用に努めた結果、16件の開示請求については全て全部開示し、審査請求等もありませんでした。水レターについては、年3回発行し、情報提供に努めました。	情報公開制度に基づいた運用に努め、14件(12月末現在)の開示請求については全て全部開示し、審査請求等もありません。水レターについては、年3回発行し、情報提供に努めています。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
広報紙による情報の提供度(PI C401)	広報紙などの配布部数/給水件数	部/件	3	3			
インターネットによる情報の提供度(PI C402)	ウェブページへの掲載回数	回	100	95			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
当企業団では、年に3回（3月号、7月号、12月号）広報紙「水レター」を発行していますが、その内容について、常に住民のニーズに合ったものを作成していけるように取り組む必要があります。また、令和５年度の個人情報保護条例の改正に伴い、情報公開制度の運用について見直す必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-3　給水収益の確保
実現方策	（1）水道料金収納への対応

担当課	料金課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
水道料金収納方法拡大	pay払い（R4～）、更なる収納方法の検討			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
水道料金収納方法拡大（Ｗｅｂ口座振替契約受付）	pay払い（R4～）対象決済アプリの拡大			
		Web口座振替受付ｻｰﾋﾞｽ、更なる収納方法の検討		
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	426	434	574	574
事業概要（目的）	令和４年度からスマートフォン決済アプリでの支払い（pay払い）を開始するとともに、新たな収納方法として「Ｗｅｂ口座振替受付サービス」（水道料金の支払方法を口座振替にて利用されるお客様に、インターネットを利用して契約申込ができるサービス）を令和４年11月から開始します。また、この他にも新たな収納方法について検討を進めます。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	pay払い導入に向けたシステムの改修作業を行います。	・令和４年４月１日よりpay払いの利用を開始します。 ・令和4年11月1日よりWeb口座振替受付サービスの利用を開始します。	・スマートフォン決済アプリの拡充を検討するとともに、Web口座振替受付サービスの利用状況等を分析し、更なる収納方法拡大の検討を進めます。	・スマートフォン決済アプリの拡充を検討するとともに、Web口座振替受付サービスの利用状況等を分析し、更なる収納方法拡大の検討を進めます。
達成及び進捗状況	システム改修業務を令和10月に委託し、令和４年３月に業務を完了しました。	予定通り利用を開始しました。 ・Pay払い（令和４年４月１日利用開始） ・Web口座振替受付サービス（令和4年11月1日利用開始）		
	◎：完了			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
新たな収納方法の検討	新たな収納方法の検討・実施回数	回/年	1	1			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
お客様サービスや収納率向上のため、スマートフォン決裁アプリでの支払い（令和4年4月1日以降に発行された納付書）及びWeb口座振替受付サービス（令和４年11月１日以降申込分より）を導入しましたが、今後も、お客様ニーズに基づいたサービスの導入を、費用対効果も十分考慮しながら、進めていく必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-4　人材育成と技術の継承
実現方策	（1）職員の技術水準の確保

担当課	浄水課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
浄水場運転管理に必要な資格取得	資格取得講習への参加			
事業費（千円）	-	121	121	121

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
浄水場運転管理に必要な資格取得	資格取得講習への参加			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	56	230	258	230
事業概要（目的）	浄水課では、技術分野で浄水場の運転管理や機械設備に精通した職員を育成することで技術と知識の向上に努め、その技術を次世代へ継承していくことを目的として、浄水場の運転管理等に必要な資格（危険物取扱者、酸素欠乏・硫化水素危険作業作業主任者等）を計画的に取得します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	以下の資格取得及び受講に努めます。 ・危険物取扱者乙種4類 ・酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	以下の資格取得及び受講に努めます ・廃棄物処理施設技術管理者 ・危険物取扱者乙種4類 ・酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者 ・特別化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者など	以下の資格取得及び受講に努めます ・廃棄物処理施設技術管理者 ・危険物取扱者乙種4類 ・酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者 ・特別化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者など	以下の資格取得及び受講に努めます ・廃棄物処理施設技術管理者 ・危険物取扱者乙種4類 ・酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者 ・特別化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者など
達成及び進捗状況	以下の資格を取得又は受講しました。 ・危険物取扱者乙種4類：1名 ・酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者：2名 ・危険物取扱保安講習：2名受講。	以下の資格を取得又は受講予定です ・危険物取扱者試験乙種4類：2名 ・酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者：2名 ・特別科学物質及び四アルキル鉛等作業主任者：2名 ・小型車両系建設機械(整地等)特別教育：2名 ・廃棄物処理施設技術管理者：1名		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
廃棄物処理施設技術管理者資格取得人数	廃棄物処理施設技術管理者の資格取得人数	人/年	1	-			
危険物取扱者試験乙4級資格取得人数	危険物取扱者試験乙4級資格取得人数	人/年	2	1			
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習資格取得人数	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習資格取得人数	人/年	2	2			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
資格は取得するだけでなく、資格更新のために定期的に講習を受講する必要があるため、その点まで含めた資格取得計画を策定する必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	３　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-4　人材育成と技術の継承
実現方策	（１）職員の技術水準の確保

担当課	施設課建設係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
現場管理実習および内外部研修	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
現場管理実習および内外部研修	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	管路布設工事等に関する外部研修に参加することで、管路の設計、施工及び現場管理等、施設課職員としての技能、知識を習得し個人のスキル向上を図るとともに課の技術水準の向上を図ります。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	日本水道協会、福岡県、福岡市水道局（羽根戸）等が主催する研修に参加します。	日本水道協会、福岡県、福岡市水道局（羽根戸）等が主催する研修に参加します。	日本水道協会、福岡県、福岡市水道局（羽根戸）等が主催する研修に参加します。	日本水道協会、福岡県、福岡市水道局（羽根戸）等が主催する研修に参加します。
達成及び進捗状況	以下主催の研修に参加しました。 日水協：　１名 福岡県：　８名 福岡市：　０名 市町村：　１名 企業団：１７名 その他：　１名	以下主催の研修に参加しました。 日水協：　３名 福岡県：　２名 福岡市：　３名 市町村：　１名		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
外部研修参加人数	外部研修会に参加した延べ人数	人/年	6	11			
内部研修参加人数	内部研修会に参加した延べ人数	人/年	6	17			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	A：高い			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	A：高い			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
外部研修は年１回の開催がほとんどで参加人数にも限りがあり係員全員が研修に参加できません。そのため、経験年数等個人のスキルに合わせて研修回数・内容に偏りが無いように行っています。 また、内容によっては報告会を行い係の技術水準の向上を図っています。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-4　人材育成と技術の継承
実現方策	（1）職員の技術水準の確保

担当課	施設課維持係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
現場管理実習および内外部研修	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
現場管理実習および内外部研修	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	現場作業（充水・断水・洗管作業など）におけるＯＪＴ研修を通じ、職員の技術水準の向上に努め、次世代への技術の継承へとつなげることを目指します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	配水管漏水修理には複数名で対応し、その中でOJT研修を行います。	配水管漏水修理には複数名で対応し、その中でOJT研修を行います。	配水管漏水修理には複数名で対応し、その中でOJT研修を行います。	配水管漏水修理には複数名で対応し、その中でOJT研修を行います。
達成及び進捗状況	本管漏水に複数名で対応し、７回のOJT研修を行いました。また、内部研修に26回、外部研修に6回参加しました。	本管漏水に複数名で対応し、2回のOJT研修を行うとともに、外部研修に９回参加しました。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
OJT研修実施回数	OJT研修を行った回数	回/年	5	7			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
現場作業におけるＯＪＴ研修は、漏水修理状況等に影響されるため、計画どおりに行うことが困難です。また、指導する側には経験が必要であることから、指導する側の人材が継続的に確保できるかが課題となります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-4　人材育成と技術の継承
実現方策	（1）職員の技術水準の確保

担当課	浄水課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
現場管理実習および内外部研修	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
現場管理実習および内外部研修	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	「研修計画」に基づき、各種研修を行っています。この計画では、外部講習への参加や、企業団内での内部研修を通じて、新しい技術の習得やこれまで培ってきた技術のノウハウを職員間で共有し、職員全体の技術水準の向上に取り組み、次世代に継承していくことを目的として策定された研修計画に基づき、各種研修に参加します。なお、浄水課では、主に日本水道協会が主催する浄水処理等の外部研修に参加するとともに、職員間で浄水処理や設備管理に関する内部研修を積極的に開催します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	以下の研修に参加を希望します。 ・採水実務研修 ・水道技術者研修会 ・九州・中四国ブロック研究会(JWRC) ・水道技術者専門別研修会 ・タイムマネジメント研修	以下の研修に参加を希望します。 ・採水実務研修 ・水道技術者ブロック別研修会 ・九州・中四国ブロック研究会(JWRC)等他講習会3つ。(危険物取扱者など)	以下の研修に参加を希望します。 ・採水実務研修 ・水道技術者ブロック別研修会 ・九州・中四国ブロック研究会(JWRC)等他講習会3つ。(危険物取扱者など)	以下の研修に参加を希望します。 ・採水実務研修 ・水道技術者ブロック別研修会 ・九州・中四国ブロック研究会(JWRC)等他講習会3つ。(危険物取扱者など)
達成及び進捗状況	以下の研修に参加しました。 ・採水実務研修：2名 ・九州・中四国ブロック研究会:1名 ・ワンペーパー作成力研修：1名 ・タイムマネジメント研修：1名 ・内部研修：9名（タイムマネジメント研修）	以下の研修に参加しました。 ・採水実務研修:3名(4月) ・浄水場等設備技術実務研修会:1名(9月) ・九州・中四国ブロック研究会(JWRC)：1名参加予定、等他講習会3つ。(危険物取扱者など) ・内部研修（採水実務研修等及び水道施設台帳システム研修）		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
現場実習会参加人数	現場実習会に参加した延べ人数	人/年	2	2			
外部研修参加人数	外部研修会に参加した延べ人数	人/年	3	3			
内部研修参加人数	内部研修会に参加した延べ人数	人/年	9	9			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
外部研修は年１回の開催がほとんどで参加人数にも限りがあり係員全員が研修に参加できません。人員の増減を調整するなど柔軟な対応が必要になります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-4　人材育成と技術の継承
実現方策	（1）職員の技術水準の確保

担当課	施設課建設係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
人材育成・技術の継承	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
人材育成・技術の継承	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	管路布設工事等に関するOJT研修を開催することで、管路の設計、施工及び現場管理等、施設課職員としての技能、知識を習得し個人のスキル向上を図るとともに課の技術水準の向上を図ります。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	現場状況と職員のスキルに合わせたOJT研修（充水、洗管、断水等）を実施します。	現場状況と職員のスキルに合わせたOJT研修（充水、洗管、断水等）を実施します。	現場状況と職員のスキルに合わせたOJT研修（充水、洗管、断水等）を実施します。	現場状況と職員のスキルに合わせたOJT研修（充水、洗管、断水等）を実施します。
達成及び進捗状況	以下のOJT研修を6回実施しました。 ・充水、洗管、断水等	以下のOJT研修を20回実施しました。 ・充水、洗管、断水、現地調査、変更設計協議等		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
OJT実施回数	１年間に実施したOJTの回数	回/年	5	6			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	A：高い			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	A：高い			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	A：高い			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
OJT研修については、指導する職員に経験・知識が必要となるため、指導する職員を継続的に確保できるかが重要になります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-4　人材育成と技術の継承
実現方策	（1）職員の技術水準の確保

担当課	総務課総務係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
研修制度の充実	継続実施			
事業費（千円）	1,750	3,103	3,103	3,103

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
研修制度の充実	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	803	959	985	3,103
事業概要（目的）	人材育成基本方針及び人材育成行動計画に基づき、外部研修への参加や、企業団内での内部研修を通じて、新しい技術の習得やこれまで培ってきた技術のノウハウを職員間で共有し、職員全体の技術水準の向上に取り組み、次世代に継承していくことを目的として策定された研修計画に基づき、自主研修、職場内研修、職場外研修を実施し、人材育成を推進します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	研修計画に基づいて、各種研修を実施します。	研修計画に基づいて、各種研修を実施します。	研修計画に基づいて、各種研修を実施します。	研修計画に基づいて、各種研修を実施します。
達成及び進捗状況	コロナ禍の影響により40%の研修が中止又は延期となりました。代替としてWeb研修及びeラーニングを活用しての研修を可能な限り実施しましたが、計画通りに実施できませんでした。	研修計画に基づいて研修を実施しました。またWeb研修も定期的に実施しました。		
	△：遅滞・取組不足			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
研修参加回数	職員一人当たりの年間の研修参加回数	回/人/年	5	4			
研修報告会実施件数	研修報告会の実施回数	回/年	10	9			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	C：低い			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	C：低い			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	C：低い			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
近年、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、十分な研修が実施されなかったことから、今後は、Webを活用した研修でカバーしながらも、コロナ終息後を見据えた中長期的な研修計画の策定が必要です。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-5　環境への配慮
実現方策	（1）環境に配慮した事業の推進

担当課	浄水課
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
環境負荷の低減	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
環境負荷の低減	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	既存の太陽光発電設備などの再生可能エネルギー設備を継続して活用するとともに、設備の更新時には高効率設備の導入や新たな再生可能エネルギー設備の導入を検討するなど、環境負荷の低減に努めます。また、浄水処理で発生する汚泥について、再利用を推進します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	再生可能エネルギー（太陽光発電）を活用した東隈浄水場の稼働によるCo2削減、機械脱水汚泥の再利用業者への売却に取り組みます。	再生可能エネルギー（太陽光発電）を活用した東隈浄水場の稼働によるCo2削減、機械脱水汚泥の再利用業者への売却に取り組みます。	再生可能エネルギー（太陽光発電）を活用した東隈浄水場の稼働によるCo2削減、機械脱水汚泥の再利用業者への売却に取り組みます。	再生可能エネルギー（太陽光発電）を活用した東隈浄水場の稼働によるCo2削減、機械脱水汚泥の再利用業者への売却に取り組みます。
達成及び進捗状況	太陽光発電については、年間で611,343kw/h発電し、東隈浄水場稼働電力に利用することで同量の電気料金を削減しました。また、汚泥売却については、622ｔを有償償却し、2月には汚泥の成分分析を行い、その結果から次年度売却先の検討に活用しました。	太陽光発電については、12月までで491,165kw/h発電し、東隈浄水場稼働電力に利用することで同量の電気料金を削減しました。また汚泥売却については、12月までで238ｔを有償償却し、また汚泥の成分分析を行い、その結果から次年度売却先の検討に活用する予定です。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
CO_2削減率	太陽光発電量(kwh)×CO_2排出係数(t-CO_2/kWh)/東隈浄水場発電量(kwh)×排出係数(t-CO_2/kWh)	%	20	19%			
再生エネルギー利用率(PI B304)	(再生可能エネルギー設備の電力使用量/全施設の電力使用量)×100	%	11	10%			
浄水発生土の有効利用率	(有効利用土量/浄水発生土量)×100	%	100	100%			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	B：普通			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
ポンプの更新については、分解整備（オーバーホール）がコスト的にも環境的にも優位ですが、状態によっては高効率型のものに更新したり、稼働状況からダウンサイジングする方が優位なケースもあります。いずれにしても、一度当該設備を分解しなければならないため、事前の判断が難しいという課題があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	3　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-5　環境への配慮
実現方策	（1）環境に配慮した事業の推進

担当課	施設課建設係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
建設資材の有効活用	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
建設資材の有効活用	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	特定建設資材廃棄物（コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、木材等）等の排出量の抑制及び不法投棄の解決策、さらに資源の有効な利用を確保する観点から平成12年５月に制定された建設リサイクル法に基づき、再生資源利用計画書（実施書）及び再生資源利用促進計画書（実施書）の提出を義務付け、建設副産物の再資源化、また再資源利用の促進を図ります。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	共通仕様書において建設副産物の適正な処理について明記し、履行を徹底することで有効活用を進めます。	共通仕様書において建設副産物の適正な処理について明記し、履行を徹底することで有効活用を進めます。	共通仕様書において建設副産物の適正な処理について明記し、履行を徹底することで有効活用を進めます。	共通仕様書において建設副産物の適正な処理について明記し、履行を徹底することで有効活用を進めます。
達成及び進捗状況	全工事において再生資源利用計画書（実施書）及び再生資源利用促進計画書（実施書）を提出させるとともに、有効活用について確認済です。	契約済及び完了工事において再生資源利用計画書（実施書）及び再生資源利用促進計画書（実施書）を提出させるとともに、有効活用について確認済です。		
	○：順調			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
建設副産物のリサイクル率(PI B306)	(リサイクルされた建設副産物量/建設副産物発生量)×100	%	70	71.5			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	A：高い			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	A：高い			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
建設発生土以外はほぼ100%のリサイクル率を達成できていますが、建設発生土においては土捨場・残土処分場を保有している事業者がおり、100%のリサイクル率達成は難しい状況です。今後も共通仕様書等で啓発に務める必要があります。	○：継続

前期実施計画事業調書（ローリングシート）

基本方針	３　安定的な事業運営の持続
主要施策	3-5　環境への配慮
実現方策	（１）環境に配慮した事業の推進

担当課	総務課総務係
事業種別	継続

第１次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
一斉定時退庁、ノーマイカーデーの推進	継続実施			
事業費（千円）	-	-	-	-

第２次前期実施計画

事業名	R3	R4	R5	R6
一斉定時退庁、ノーマイカーデーの推進	継続実施			
事業費（千円）	実績（決算）	決算見込	予算	予定
	-	-	-	-
事業概要（目的）	環境への配慮として、次に掲げる事業を実施します。 ・一斉定時退庁日：職員のワークライフバランスの推進及び全庁的に水道光熱費を抑えることによる環境への配慮を目的として、毎週水曜日に実施します。 ・ノーマイカーデー：交通渋滞緩和、大気汚染抑制等を目的として毎月第1,3金曜日に実施します。			
年度毎の具体的取組内容、スケジュール等	一斉定時退庁日を、毎週水曜日、ノーマイカーデーを、毎月第1、第3金曜日に実施します。	一斉定時退庁日を、毎週水曜日、ノーマイカーデーを、毎月第1、第3金曜日に実施します。	一斉定時退庁日を、毎週水曜日、ノーマイカーデーを、毎月第1、第3金曜日に実施します。	一斉定時退庁日を、毎週水曜日、ノーマイカーデーを、毎月第1、第3金曜日に実施します。
達成及び進捗状況	・一斉定時退庁日は、予定通り毎週水曜日に実施しました。ノーマイカーデーは新型コロナウイルスの感染拡大のため、公共交通機関を利用することで感染のリスクが高まる恐れがあるため実施を見送りました。	・一斉定時退庁日は、予定通り毎週水曜日に実施しました。ノーマイカーデーは新型コロナウイルスの感染拡大のため、公共交通機関を利用することで感染のリスクが高まる恐れがあるため実施を見送りました。		
	△：遅滞・取組不足			

達成指標

名　称	算出根拠	単位	目標値	実績値			
				R3	R4	R5	R6
一斉定時退庁達成率	一斉定時退庁日における職員の18時までの退庁割合	%	100	81			
ノーマイカーデー達成率	ノーマイカーデーにおける対象職員のノーマイカーでの出勤割合	%	100	0			

評価

評価の視点	評価項目	評　価			
		R3	R4	R5	R6
効率性	費用対効果が発揮されているか。	C：低い			
有効性	達成指標の向上に貢献できたか。	B：普通			
方向性	目的達成に向かっているか。 事業実施が目的化していないか。	B：普通			

課題及び今後の実施方針

課題及びその対策	今後の実施方針
新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、ノーマイカーデーについては、公共交通機関を利用することで感染のリスクが高まる恐れがあるため、令和３・４年度は一時中断しています。今後、感染者数等を鑑み、実施できると判断した場合は再開する予定です。	○：継続

4．財政の見通し

（１）前期実施計画における財政の見通しの概要

①　単年度利益の確保

管路の更新等により費用（減価償却費等）が増加し損益が悪化する影響を最小限に抑えるため、収入の確保や経営の効率化、経費節減などに取り組み、単年度利益を確保します。

②　内部留保資金の適正な運用

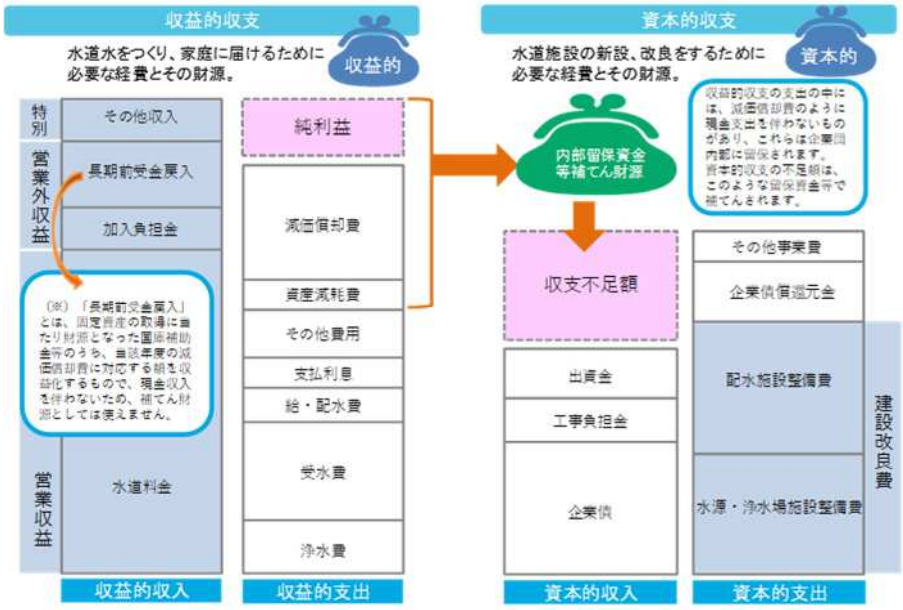
水道事業の健全な運営に必要な内部留保資金（減価償却費等の損益勘定留保資金及び未処分の利益剰余金など）について検証を行い、建設改良事業への投資に利用しつつ、内部留保資金として適正な資金を確保します。

③　企業債残高の縮減

効果的かつ効率的な資金調達を行うことで、前期実施計画期間内における企業債残高を縮減します。

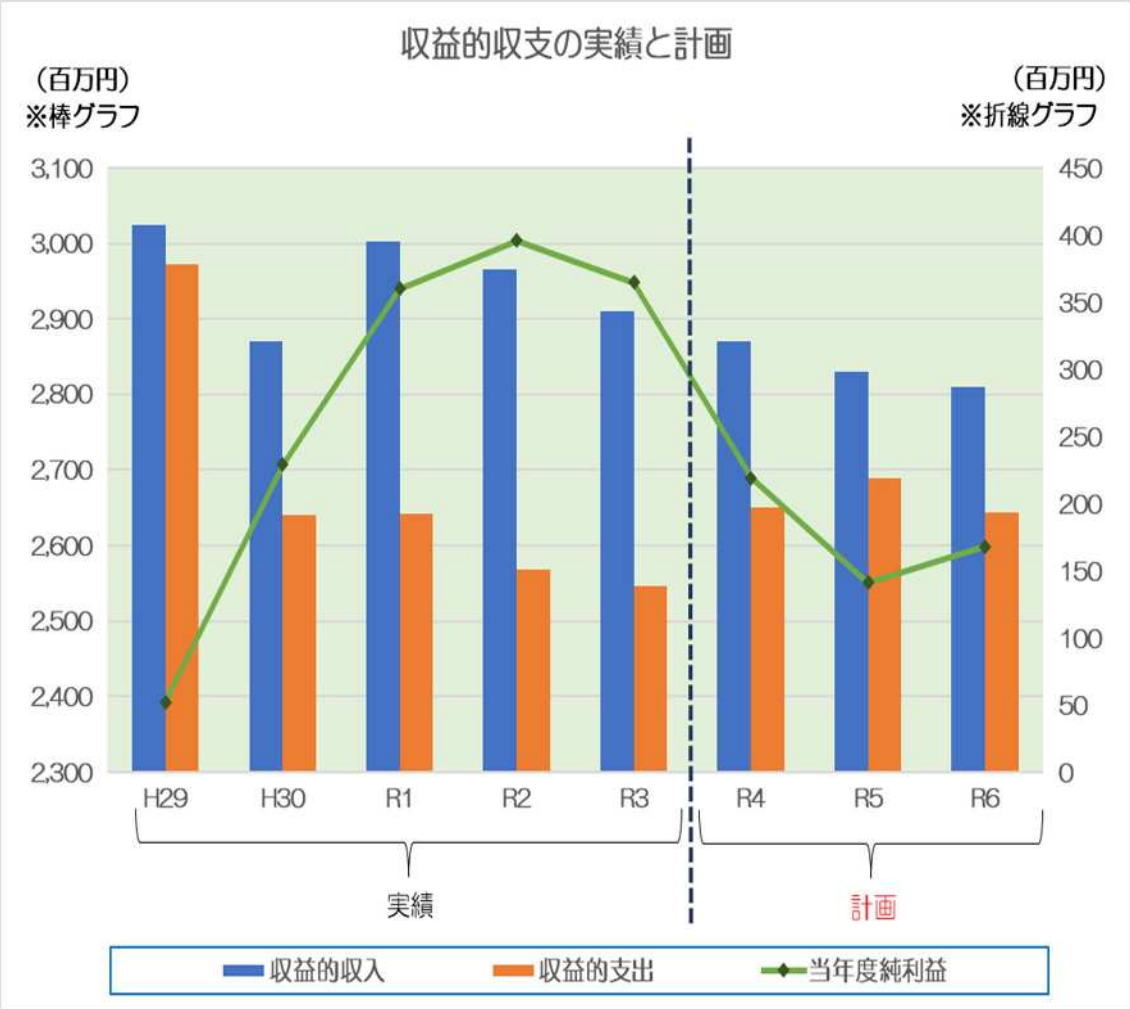
④　現行料金の維持

①から③に取り組むことで、前期実施計画期間内においては、水道事業の安定的な経営が可能となることから、水道料金の改定は行いません。



水道事業会計のイメージ

（２）収益的収支



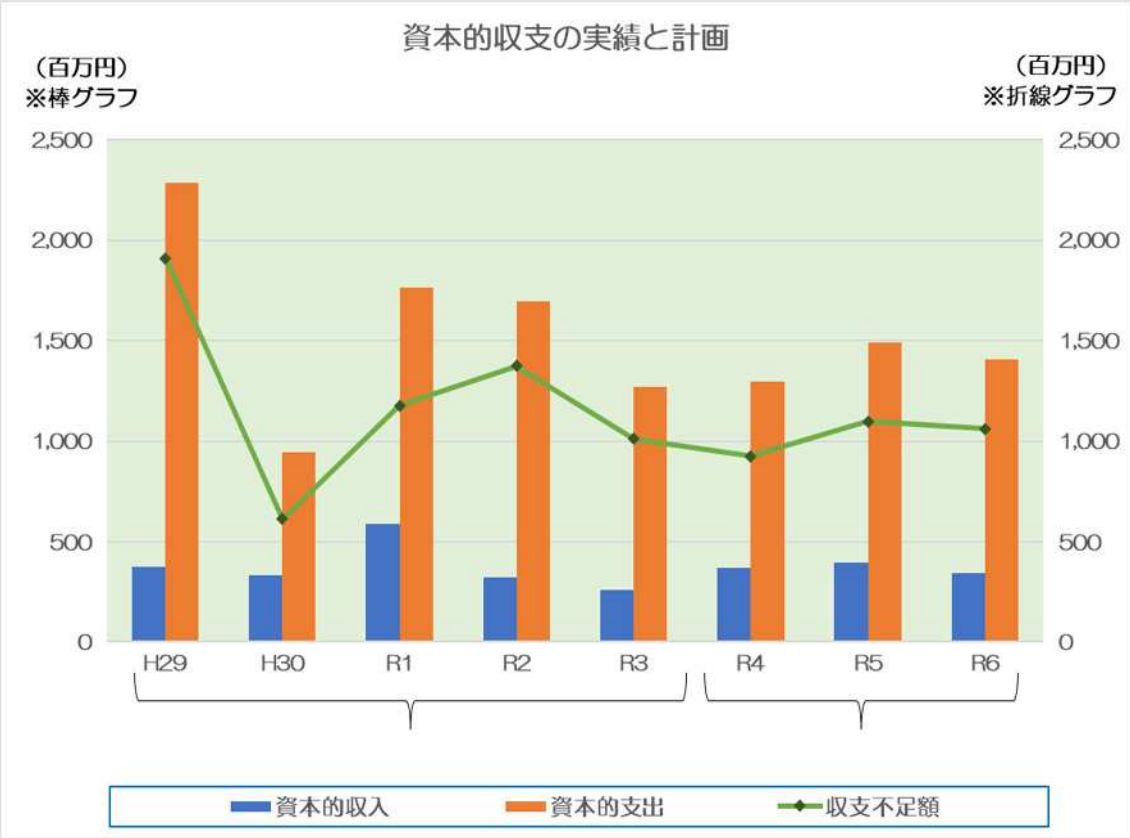
（消費税抜き　単位：百万円）

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
収益的収入	3,025	2,870	3,002	2,965	2,911	2,870	2,830	2,810
うち料金収入	2,321	2,266	2,309	2,373	2,360	2,324	2,319	2,312
収益的支出	2,973	2,641	2,642	2,569	2,546	2,651	2,689	2,643
当年度純利益	52	229	360	396	365	219	141	168
	実績					計画		

収益的収支について

収入が微減する傾向を示す一方、支出は 26～27 億円を推移する見込みのため、当年度純利益も減少傾向ですが、前期実施計画期間内においては一定の利益を確保できる見通しです。

（3）資本的収支



（消費税込み　単位：百万円）

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
資本的収入	375	330	588	321	257	370	394	342
うち企業債	300	280	530	280	210	300	300	300
資本的支出	2,285	945	1,765	1,696	1,268	1,297	1,492	1,404
収支不足額	1,910	615	1,177	1,375	1,011	927	1,098	1,062
補てん財源	1,910	615	1,177	1,375	1,011	927	1,098	1,062
損益勘定留保資金	1,609	585	1,074	1,276	953	667	820	786
利益剰余金	200	0	0	0	0	200	200	200
消費税資本的収支調整額	101	30	103	99	58	60	78	76

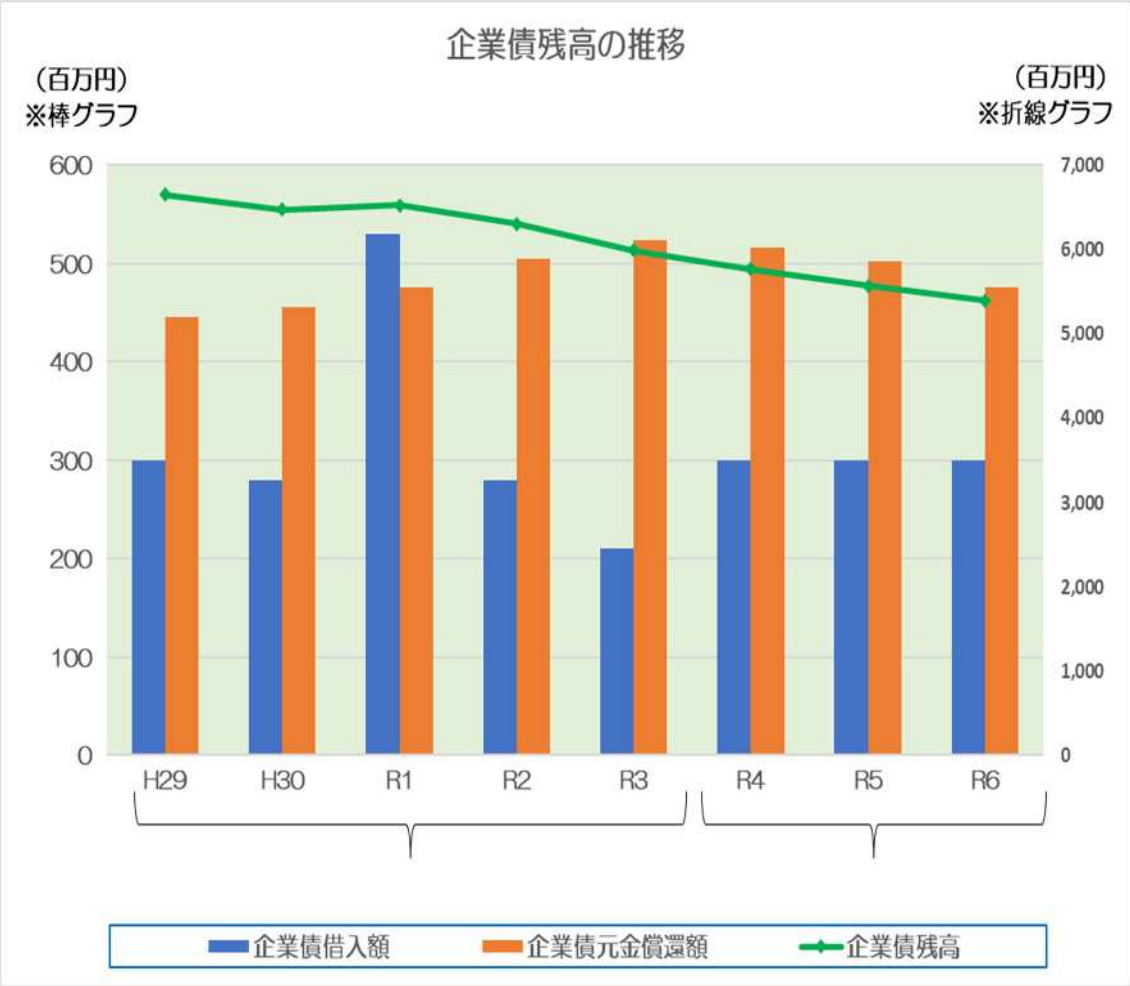
実績　　計画

資本的収支について

支出は、新規水源確保のため先送りしていた管路整備事業等が本格化していくことから、引き続き、13～15 億円の水準で推移する見通しです。

収入は、支出の財源となる企業債借入金や一般会計からの繰入金等であり、収支は9～11 億円程度の不足を見込んでいますが、減価償却費等の損益勘定留保資金や利益剰余金を活用して補てんする予定です。

（４）企業債残高



（単位：百万円）

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
企業債借入額	300	280	530	280	210	300	300	300
企業債元金償還額	446	456	476	505	524	516	502	476
企業債増減額	△ 146	△ 176	54	△ 225	△ 314	△ 216	△ 202	△ 176
企業債残高	6,649	6,473	6,527	6,302	5,988	5,772	5,570	5,394

実績　　計画

企業債残高について

企業債借入額を元金償還額の範囲内に抑え、定額化することにより、前期計画期間中（R3からR6まで）に企業債残高を約５億円縮減します。

（５）財政収支実績

収益的収支（消費税抜き）、資本的収支（消費税込み）

（単位：千円）

項目 ＼ 年度	H29 実績値（決算）	H30 実績値（決算）	R1 実績値（決算）	R2 実績値（決算）
水道事業収益	3,025,424	2,870,367	3,002,486	2,965,396
料金収入	2,321,720	2,266,619	2,309,286	2,373,994
その他	703,704	603,748	693,200	591,402
水道事業費用	2,973,860	2,641,078	2,642,894	2,568,658
人件費	379,448	364,990	353,463	364,800
物件費	1,189,208	1,161,879	1,132,199	1,075,710
減価償却費	1,215,059	979,589	1,036,309	1,023,829
支払利息	131,856	121,845	111,144	100,281
その他	58,289	20,147	9,779	4,038
当年度純利益	51,564	229,289	359,592	396,738
資本的収入	375,162	330,298	588,075	321,086
企業債	300,000	280,000	530,000	280,000
その他	75,162	50,298	58,075	41,086
資本的支出	2,285,132	945,145	1,765,035	1,696,127
建設改良費	1,807,402	458,405	1,249,621	1,152,159
企業債償還金	446,018	455,623	476,434	505,031
その他	31,712	31,117	38,980	38,937
資本的収支不足額	1,909,970	614,847	1,176,960	1,375,041
補てん財源	1,909,970	614,847	1,176,960	1,375,041
損益勘定留保資金	1,609,832	585,396	1,074,179	1,275,806
利益剰余金	200,000	0	0	0
消費税資本的収支調整額	100,138	29,451	102,781	99,235

企業債残高	6,648,816	6,473,194	6,526,760	6,301,729

（６）財政収支実績及び見通し

収益的収支（消費税抜き）、資本的収支（消費税込み）

（単位：千円）

項目 ＼ 年度	R3 実績値（決算）	R4 計画値（補正予算）	R5 計画値（当初予算）	R6 計画値（経営戦略）
水道事業収益	2,911,297	2,870,279	2,829,912	2,810,254
料金収入	2,360,899	2,324,114	2,318,793	2,312,122
その他	550,398	546,165	511,119	498,132
水道事業費用	2,545,962	2,651,286	2,688,995	2,642,563
人件費	347,886	364,171	357,874	341,598
物件費	1,084,893	1,165,183	1,255,721	1,189,530
減価償却費	1,019,966	1,029,403	990,051	1,028,469
支払利息	89,665	79,453	73,084	69,268
その他	3,552	13,076	12,265	12,698
当年度純利益	365,335	218,993	140,917	167,691
資本的収入	257,045	370,092	394,102	342,000
企業債	210,600	300,000	300,000	300,000
その他	46,445	70,092	94,102	42,000
資本的支出	1,268,694	1,297,241	1,492,274	1,404,376
建設改良費	699,124	711,526	916,112	883,379
企業債償還金	524,734	515,641	501,676	475,909
その他	44,836	70,074	74,485	45,088
資本的収支不足額	1,011,649	927,149	1,098,172	1,062,376
補てん財源	1,011,649	927,149	1,098,172	1,062,376
損益勘定留保資金	953,511	667,338	820,372	785,887
利益剰余金	0	200,000	200,000	200,000
消費税資本的収支調整額	58,138	59,811	77,800	76,489

企業債残高	5,987,595	5,771,954	5,570,278	5,394,369

5．進捗管理と計画見直し

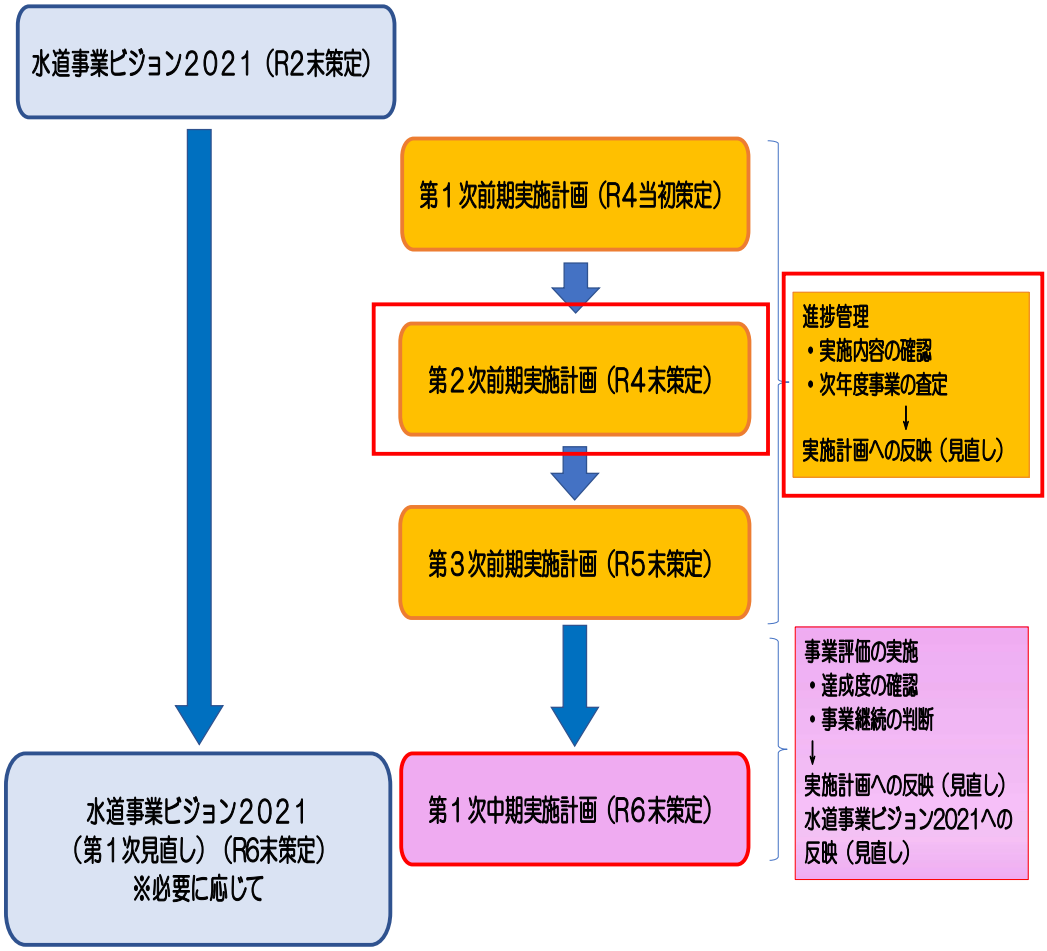
（１）進捗管理

前期実施計画に掲げた主要事業計画については、毎年度進捗状況を確認します。また、費用を伴う事業については、予算計上にあたり、事業採択に係る査定を行い、事業内容、費用及び手法等を明確化します。

（２）事業評価と計画見直し

前期実施計画は、進捗管理を踏まえて毎年度見直しを図ります。

また、前期実施計画の最終年度である令和６年度には、事業評価を行い、事業の達成度を評価します。評価結果を踏まえ、必要に応じて水道事業ビジョン２０２１を見直すとともに、見直し後の水道事業ビジョン２０２１に係る中期実施計画を策定します。



進捗管理及び見直しのフロー

春日那珂川水道企業団キャラクター「うぉ～たん」です。
名前は一般公募によりネーミングされました。
水のしずくをイメージして平成 15（2003）年２月から活躍しています。
庁舎内はもちろんのことホームページや水道週間などのイベントでも見ることができます。
これからもよろしくお願いします。

春日那珂川水道企業団水道事業ビジョン２０２１
第２次前期実施計画

春日那珂川水道企業団　総務課企画係（令和５年３月）
〒816-0804　春日市原町二丁目 30 番地２
ＴＥＬ　092-571-7001
ＦＡＸ　092-574-4960
E-Mail　kikaku@kasuga-nakagawa-suido.or.jp
https://kasuga-nakagawa-suido.or.jp